

24 2234

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 1616

14 May 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Discussion of the Axis Nations.

Date: Nov 1940 Original ( ) Copy (x) Language: Japanese

Has it been translated? Yes ( ) No (x)  
Has it been photostated? Yes ( ) No (x)

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable)

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: Home Ministry

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Preparation of Jap opinion for war.

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

Pamphlet, by SHIRATORI, Toshio, is an encomium of NAZI GERMANY in which the author sees ultimate ruin for FRANCE and BRITAIN. He urges a strong alliance with ITALY and GERMANY so that JAPAN may be the caretaker of the "new order" in ASIA. Rabid against pro-Anglo-American sympathizers, he declares that JAPAN's sphere of existence should include MANCHURIA, CHINA, and the SOUTH SEAS.

Analyst: 2nd Lt. Person

Doc. No. 1616

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. *1616*

Date 10 May 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Discussion of the Axis Nations.

Date: November 1940 Original ( ) Copy (X) Language: *Jap*

Has it been translated? Yes ( ) No (X) ~~Partially.~~

Has it been photostated? Yes ( ) No (X)

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable)

Document Division.

SOURCE OF ORIGINAL: Home Ministry.

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

*Preparation of Jap opinion for war.*

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

This pamphlet, written by SHIRATORI, Toshio, is an encomium of NAZI GERMANY in which the author sees ultimate ruin for FRANCE and BRITAIN. He urges a strong alliance with ITALY and GERMANY so that JAPAN may be the caretaker of the "new order" in ASIA. Rabid against pro-Anglo-American sympathizers, he declares that JAPAN's sphere of existence should include MANCHURIA, CHINA, and the SOUTH SEAS.

Analyst: 2d Lt. Person  
*ewgp*

Doc. No. *370*

Doc. No. 1616

C E R T I F I C A T E

W.D.C. No. \_\_\_\_\_

I.P.S. No. 1616

Statement of Source and Authenticity

I, SHIBATA, Kosaburo hereby certify that I am officially connected with the Japanese Government in the following capacity: Second Secretary, Home Ministry

and that as such official I have custody of the document hereto attached consisting of 168 pages, dated Nov., 1946 and described as follows: Discussion of the Japan-Germany-Italy Axis

I further certify that the attached record and document is an official document of the Japanese Government, and that it is part of the official archives and files of the following named ministry or department (specifying also the file number or citation, if any, or any other official designation of the regular location of the document in the archives or files): Home Ministry

Signed at Tokyo on this third day of January 1947.

柴田小三郎  
Shibata Kosaburo  
Signature of Official

Witness: Richard H. Larsh

内務省二級事務官  
Official Capacity SEAL

Statement of Official Procurement

I, Richard H. Larsh, hereby certify that I am associated with the General Headquarters of the Supreme Commander for the Allied Powers, and that the above certification was obtained by me from the above signed official of the Japanese Government in the conduct of my official business.

Signed at Tokyo on this 3rd day of Jan., 1947

Richard H. Larsh  
NAME

Witness: Chief, Inv. Div.

Investigator, IPS  
Official Capacity

1. Doc 1616

Doc 1616

日  
獨  
伊  
樞  
軸  
論

外務省外交顧問

白鳥敏夫 著

ナチス叢書

刊  
アルス

昭和十五年十一月十六日

發行

34. 2234

昨秋歸朝以來、隨處ニ試ミタ講演類々、新聞、雜誌ニ與ヘタ講話等ヲ一部取纏メテ上梓スルヨウ、同志諸君ノ才慮メニ隨フコトニシタ。

今日カラ見レバ、變ツテモヨイ背見デアリ、ソノ後ノ事實ニヨツテ裏切ラレタ節モ少クナイノデ、コノマ、江湖ニ向フコトハ、多分ニ忸怩タルモノガアルケレドモ、「敵前上臣ノ感ナキヤ」ト一部カラ擲擻サレテ歸ツテ來タ當時ノ空氣ノ裡ニアツテハ、コレダケノコトヲ言フノニモ多少ノ「勇氣」ヲ必要トシタノデアリ、サウ言ツタ歴史的ノ觀點カラ觀レバ、未ダ多少參考ノ價值ガアルカモ知レナイ。

併シナガラ、三國同盟モ既ニ事實トナツタ今日、吾々ハ徒ニ過去ノ經緯ニ徘徊スベキデナイコトハ勿論デアツテ、本同盟ノ持ツ世界史的意義、特ニ今後ノ人類社會ヲ支配スベキ新秩序、新世界觀ニ就イテ深刻ナル解説ガ要求サレルワケデアリ、サウシタ努力ガソノ道ノ人ニヨツテナサレ、ソノ成果ガ紛々世間ニ送ラレルコトヲ希望スルモノデアル。本行ノ如キハ、將ニソノ爲メノ小サナ嚮口ヲ提供スル效果ガアレバ幸ヒデアル。

昭和十五年十一月

白鳥敏夫

エ 日獨伊同盟ノ必然性

今日外交ヲ論ズルニ方ツテハ、第一ニ現下ノ世界ガ一大轉換ノ前夜ニアルコトヲ知ラネバナラヌ。前同ノ世界戦争ハ、未ダ世界ノ新舊兩勢力ノ對立デハナクテ、同一性格ノ國々ガ何レモ自國ノ立場、自國ノ利益ニ關スル舊來ノ觀念ニ基イテ去就ヲ決シタガ故ニ、本來行動ヲ共ニスベカラザルモノガ、同一ノ陣營ニ立ツテ戦ツタ。例ヘバ、日本ヤ伊太利ガ英。米。佛等ノ舊勢力ニ味方シタガ如キハソノ著シイモノデアアル。然ルニ、ヴェルサイユ條約ガ歴史ノ動向ニ逆行シテ、此ノ世界ノ秩序ヲ一。二世紀過去ニ引キ戻シタガ爲メニ、却ツテ世界ノ新興勢力ノ擡頭ヲ促シタノデアアル。日本ガ大陸政策ニ乘リ出シ、伊太利、獨逸ガ全体主義體系ヲ完成シタコトハ、何レモソノ現ハレデアツテ、初メハ之等ノ新興勢力ハ必ズシモ共通ノ使命ニ目覺メナカツタケレドモ、舊勢力ガ自己保存ノインスチンクトカラシテ、舊秩序維持ノ爲ニ自ラ連繫シ、合作スルノ勢ガ明ラカニナルニ從ツテ、新興諸國ハイヤテモ相提携スルノ已ムナキニ至ツタ。コレガ世界ノ現状デアアル。

從來、コノ兩陣營ハ持テル諸國、持タザル諸國

ト區別サレテ來タ。事實ハ全クソノ通りデアツテ、新興諸國ハ多ク物質ニ恵マレズ、ソノ生活圖ガ狹隘ニスギ、現状ニ絶大ノ不滿ヲ抱ク國々デアル。併シナガラ、若シ之等ノ諸國ノ欲スル所ガ、單ニソノ物質的狀態ヲ改善シヨウト言フノミナラバ、今ノ鬭争ハ、從來ノ國際争鬭域ト敢テ選ブ所ハナイワケデアルガ、現下世界ノ對立ハイマ少シク高イ意味ヲ持タセテ考ヘルコトガ出來ルト思フ。

日本ノ大國進出ハ單ナル物質的衝動ニカラレタモノデアハナク、日本民族ノ驕國ノ大理想ヲ實現スルガ爲デアアルコトハ、今日日本國民ノ總テガ自覺スル所デアツテ、東亞新秩序ナル言葉ハ端的ニコノ意味ヲ表現シテ居ル。伊太利、獨逸ノ國家體制ガソノ理念ニ於テ、我が立國ノ本義ニヤ、近似シテ居ルコトハ人ノ知ル所デアル。ソシテ、一口ニ全體主義ト稱セラル、之等諸國ノ宇宙觀、國家觀ハ、個人主義ヲ基調トスル所謂デモクラシー諸國ノソレト對蹠相反スルコトハ言フマデモナキ所デアツテ、今日世界ガ新舊兩勢力ニ分離セラレテ居ルトイフコトハ、專ラコノ思想ノ對立ニソノ重點ヲ置イテ、考察シナケレバナラヌ。

茲ニ於テ、最モ尙疑トナルノハソビエツト。ロシアノ立場デアラウ。共產主義ノ宇宙觀ハ所謂デ

モクラシーノソレト同一平面ニ立ツモノデアリ、  
 全權主義ノ世界觀トハ全ク相容レナイモノデアル。  
 サレバコソ所謂人民以線ナルモノガ不自然デハナ  
 カツタワケデアルガ、若シソ聯ニシテ飽クマデモ  
 マルキシズムノ立場ヲ棄テヌラバ、之ト全權主  
 義的諸國トノ緊密ナル合作ハソコニ大イナル無理  
 ヲ生ズル。今日獨ソノ間ニ一私ノ同盟關係ガ成立  
 シ、舊勢力ニ向ツテ共同以線ヲ張ツテ居ルガ、之  
 ガ若シ單ニ舊勢力ヲ破壊スルト言フ一點ニ於テ、  
 利害共通デアルガ爲メノ提携ナラバ、世界史的ニ  
 見テ、サシタル直長性ハ無イノデアルガ、之ニ反  
 シソ聯ガ從來探リ來ツタ世界共產革命ノ企圖ヲ拋  
 棄シ、國家體制ニ於テモ逐次獨伊式ノ全權主義ニ  
 移行スルトイフイテオロギーノ實質ヲ意味スルモ  
 ノトスレバ、之ハ實ニ直長ナル出來事ト見ナケレ  
 バナラナイ。我々トシテハ今後ノ推移ヲ最モ慎重  
 ニ見究ハメルコトガ肝長デアラウ。

世界歴史ノ機方トシテハ、以上述べた所ニ歸  
 ハシテ居ルガ、同時ニ聯カ異ツタ點カラ示スル  
 コトモ出來ル。人類ノ集居生活ハ一貫シテ逐次ソ  
 ノ範圍ヲ擴大スル傾向ヲ示シテ居ル。之ハ主トシ  
 テ經濟上ノ必要トイフコトニ根據ガアルモノト認  
 メラレルガ、他方全權主義的世界觀ハ自然コノ傾



向ニ拍車ヲカケルコトニナルノデアアル。日本ガ  
 海。支ブロック結成ヲ志シ、獨逸ガ所甞生レ活ス。  
 伊太利ガ地中海ヲメグル大帝國ノ建  
 設ヲ以テソノ理想トスルノハ何レモソノ軌ヲ一ニ  
 スル次第デアアル。英國ガソノ傳統ノ自由貿易主義  
 ヲ一掃シテ、オツタワ協定ヲ以テ、ブロック經濟  
 ノ前驅ヲナシタノハ周知ノ事實デアアルガ、之ハ英  
 國ガ自由主義ノ本山ヲ以テ自ラ任ジナガラ、經濟  
 的必妥ニセマラレ、全體主義理論ノ一部ヲ事實ノ  
 上ニ採用シタトモ評シ得ルノデアアツテ、彼等ガ日  
 獨。伊ニ對シテハ、民族自決ノ原則ヲ強要シナガ  
 ラ、自己ノ國家體制ニ於テハ曉ラカニコノ原則ヲ  
 モ無視シテ居ルコトハ、ソノ立場ヲ頗ル薄弱ナモ  
 ノトスルノデアアル。

若シ英。米。日等ガソノ自ラ現ニ享有スル絶大  
 ナル經濟範圍ヲ維持セムコトヲ欲スルナラバ、彼  
 等ニ比シテ何等劣ルコトナキ他ノ優秀民族ニ對シ  
 テモ同ジ程度ノ經濟自由ヲ認メルノ雅量ヲ持ツテ然  
 ルベキテハアルマイカ。ソノコトナクシテハ新シ  
 キ世界ハ生レ得ナイ。之ガ目前ノ世界圖景デアアル  
 ト思フノデアアルガ、コノ新シキ世界ヲ生ミ出スガ  
 爲メニハ、從來ノ天風人柱トカ、民族自決トカ、國  
 家主權トカ言フ概念ニ相當ノ修正ヲ加ヘナケレバ

ナラヌト同時ニ所謂持テル諸國モ自ラノ犧牲ヲ覺悟スベキテアル。之ヲ平易ニ言ヘバ、從來ノ世界ハ六十餘ノ國々ニ分レ何レモ主權ノ範圍ヲ主張シテ、人類社會ノ向上發展ハ却テソノ爲ニ阻止セラレテ來タ。全體主義諸國ノナサムトスル所ハ、大難把ニ、コノ不合理ヲ矯正セントスル所ニアルトモ云ヘル。即チ世界ヲ比較的少數ノグループ又ハブロックニ分ツテソノ國內ニ於テ各民族ハ固執ナル共同生活ヲ營ミ各々ソノ所ヲ行ルト云フ仕組テアル。之ハ從來ノ理念カラ言ヘバ非常ナル革命デアツテ一大争鬪ヲ起タ上テナケレバ實現困難デアルカモ知レヌ。現ニアジアニ於テ二年半ニワタル大戦争ガ取ハレテ居リ、歐羅巴ニ於テモ新舊勢力間ノ一大葛藤ガ既ニ口火ヲ切ラレ、今後益々ソノ熾烈サト、範圍トヲ擴大セントシテキル。併シナガラ、今日既ニ歐羅巴ノ交戦國ノ間ニ於テ、歐羅巴聯邦トイフコトガ提唱セラレ、東洋ニ於テモ東亞聯盟乃至協同體ノ主張ヲ見ルノデアツテ、世界史ハ今後必然ニソノ方向ニ進展セザルヲ待ナイモノト信ズル。

今後ノ日本外交政策ヲ如何ニ決定スベキカノ向  
是ハ大體以上ノ前提ニ照ラシテ見レバ何等迷フベ

キ管ハナイト思フ。實ハ、日本ノ外交政策ハ滿洲  
 事變ヲ以テ、大國政策ニ乗り出シテ以來、既ニ確  
 定シテ居ルノデアツテ、後退乃至歪曲ヲ許サヌノ  
 デアルガ、今日ニ於テモナホ且ツ國體ガ二ツニ割  
 レテ何レトモ決シ兼ネテキルノハ、天下ノ奇怪事  
 ト云ハナケレバナラヌ。併シナガラ、之ハ一時ノ  
 現象デアツテ、歴史ノ必然ハ人力ヲ以テ如何トモ  
 スルコトハ出來ナイ。終局ニ於テハ、必ズ落チツ  
 クベキ所ニ落チツクモノト思ハレルガ、現下内外  
 ノ情勢ハ長ク遲疑逡巡ヲ許サヌモノガアル。

然ラバ假リニ近キ將來ニ於テ、歴史ノ趨向ニ副  
 ウタ日本ノ建直シガ實現スルモノト見テ、今後ノ  
 我が外交ガ如何ナル線ヲ辿ルベキカトイフニ、ソ  
 ノ腕ニ於テモ、日本ノ外交ガ東亞新秩序ノ建設ヲ  
 以テ眼目トスベキコトハ、固ヨリ變リハナイ。タ  
 ダ之ヲ遂行スル精神ニ至ツテハ一段ノ眞劍味ト激  
 刺性トヲ加フベキハ勿論デアル。

東亞ノ新秩序ナル言葉ハ、國內自由主義分子ノ  
 側カラ見レバ、誠ニ厄介ナ表現デアル。從ツテ彼  
 等ハ極力コノ言ヒ廻シヲ避ケントシテキル。海外  
 ノ舊秩序勢力モ凡ユル機會ニ「支那ノ新秩序」ニ  
 難癖ヲ付ケ、排斥シテキル。現在ノ國內情勢ニ於  
 テハ、コノ内外ノ策動ガ成功スルノ可能性ハ、決

シテ鮮ナシトシナイノデアアル。併シナガラ、歴史ハ用捨ナクソノ定メラレタル軌道ヲ進ミツ、アル。一度頓挫シタカニ見エタ日獨伊ノ提携ハ、同盟トイフ形式ヲ踏ムト否トニカ、ハラズ、依然トシテ、今日ノ世界ニ於ケル儼然タル事實デアアル。獨ソ條約ハ、コノ樞軸ヲ弱メル代リニ却ツテ之ヲ補強スルニ役立つタ。國際間ニ於ケル日本ノ地位ハ、却ツテ一段ノ強ミヲ加へ、一時外國ニ宣傳セラレ我國民モ翹カニ之ヲ感ジタ日本ノ孤立云々ハ、畢竟歴史ノ約束ニ對スル認識ノ不足乃至信念ノ缺如ヲ語ル以外ノ何モノデモナイコトガ分ツタ。

シテ見レバ、日本トシテハ東亞ノ新秩序建設ノプログラムヲ一點一畫ト雖モ捃グルノ必要ナキノミナラズ、愈々之ヲ擴充シ、完壁化スコトニ何等躊躇スルヲ長シナイノデアアル。

タゞ東亞ノ新秩序ハ、世界新秩序ノ一環デアアル。世界ノ他ノ部分ガ舊態依然タルカ、又ハ反對ニ後退スル場合、地球ノコノ方面ノミニ新秩序ノ打チ建テラレルト云フコトハ有り得ナイ。日本ニ於テハ歐洲政策ヲ白紙ニ還元シ、支那事變ノ處理ニ邁進スルトイハレテキル。之ハ次カラ次ト歐洲ノ天地ニ展開スル新事象ニ直面シ、之ヲ正シク了解シ説明スルコトガ出來ナイ爲メ復雜怪奇ノ一語ニ葬

10.

Doc 1616

リ去ツテ、今後ハ専ラ支那問題ニ没頭スルノダト  
イフ頗ル俗分リノスル方針ニ逃レントスルモノニ  
外ナラヌ。併シナガラ、今日ノ世界ニ於テ斯ノ如  
キ逃避ハ許サレヌ。亞細亞ノ問題ハ必然的ニ歐羅  
巴ノ問題デアリ、亞米利加ノ問題デアル。新日本  
ノ外交ハ大膽ニ、勇敢ニ、世界歴史轉換ノ現下ノ  
國際政局ノ真相ヲ把握シテ堂々ノ布陣ヲナスベキ  
デアル。

(以下次頁へ續く)

II 歐洲大戰ト日本ノ態度

(昭和十四年十一月講演)

私ガイタリニ行ク迄ハ、日本ニ於テハ全體主義トカ、或ハ防共樞軸トイフヤワナコトヲ誰シモ口ニシタコトデアリ、日獨伊ノ間柄ハ單ニ防共協定ダケニ止マラズ、更ニコレヲ強化セネバナラヌトイフコトヲ多クノ人が考ヘタノデアル。コレハ、一ツニハ支那事變ノ解決ガドイツ、イタリーノ後援ニ俟ツ所ガ多イトイフコトヲ、眼前ノ國際關係ニ照シテ國民各自ガ痛感シタカラデアルト思フ。從ツテコノ防共關係ヲ更ニ一歩進メテ軍事同盟ニ迄シタラヨイトイフコトガ、私ガ向フニ發ツ迄、可ナリ國民ノ間ニ廣ク行キ亘ツテ居ツタ感情デアルト見タノデアル。一般的ノ無條件ノ日獨伊軍事同盟ヲ結ブトイフコトニ對シテハ、一部ニ大キナ反對モアツタガ、國民一般ノ間ニハサウムヅカシイ定義ハ別トシテ、兎モ角モ「同盟」ヲ欲スル氣持ハ確カニ認めラレタ。ソレデ私モ此ノ問題ニ微力ノ限りヲ盡シテ見ヨウト考ヘテイタリニ使シタノデアツタ。

然ルニ日本ノ動向ガ、英國ト協調スルコトニ依ツテ、日支事變ヲ解決スルヤワナ形勢トナツタ。

Doc 1616

11.

日本ガサウイフ態度デアル故ニ、獨伊側モ段々ト  
 コノ問題ニ對シテ疑ヒヲ持ツテ來タ。遂ニ日本ニ  
 見限ヲ付ケテ、獨ソ不可侵條約ニ迄行ツテ了ツタ  
 トイフワケデ、其處ニ至ル迄ノ混緯ヲ詳シク述ベ  
 ル餘裕ハナイシ、又之ヲ率直ニ發表スルコトハ穩  
 當ヲ缺ク點モアルト考ヘラレルノデ省略シ、タゞ  
 私ガ茲ニ斷言シ得ルコトハ、獨ソ不可侵條約締結  
 ニ迄行ツタ徑路ニ於テ、日本側ニモ多分ニ實ムベ  
 キ所ガアル、反省スベキモノガアルトイフコトハ、  
 動カスベカラザル事實デアルトイフコトデアル。  
 一般ニハドイツガ日本ヲ義切ツタ、ドイツハ不  
 信デアアル、トカウ考ヘテ居ルガ、私ノ觀ル所デハ、  
 ドイツハ日本ヲ義切ツタノデモナケレバ、大ナル  
 不信ヲ犯シタノデモナイ。其處ニ至ツタ情狀ヲ酌  
 量スレバ、敢テドイツヲ不信トハ言ヒ兼ネルノデ  
 アル。ソシテ又ドイツガ元來日本カラ見テモ又ド  
 イツ自身カラ見テモ、共ニ利益デアルト考ヘラレ  
 タ防共協定ノ精神ニ反シテソ聯ト結ンダ。而モソ  
 レハ單ナル不可侵條約デハナク、更ニ一步ヲ進メ  
 タ同盟ニ近イ所迄行ツテ居ルトイフコトデアルカ  
 ラ、コレハ常識的ニモドイツノ日本ニ對スル感情  
 ガ冷却スベク考ヘラレルノデアルガ、事實ハ全ク  
 ソレニ反シテ、ソ聯ト結ンダニモ拘ラズ、ドイツ

ハ日本ニ對シテ依然トシテ深厚ナル友情ヲ捧ゲテ居ルコトハ今デモ尙少シモ變ツテ居ラヌトイフコトヲ、私ハ遠確ナル事實トシテ言ヒ得ルノデアアル。イタリ―ハ勿論、日本ニ對シテ何等感情ノ變ルベキ理由ハナイ。依然トシテ極メテ好感情ヲモツテ居ル。ソシテイタリ―トドイツトノ關係ハ、アノ獨ソ不可侵條約が出来タカラト言ツテ少シモ惡化シテ居ラナイノミナラズ、イタリ―ハ寧ろ獨ソ接近ヲ欲シ、以前カラコレヲドイツニ勸メテ來タトイフノガ事實デアアル。

デアアルカラ、日獨伊樞軸トイフモノハ、今日ニ於テモ實ハ變化シテ居ラヌノデアアル。只日本ノ方が何トナク、ドイツハ日本ヲ裏切ツテ、ソ聯ト結ンダノハ怪シカラシコトダト考ヘテ居ルヤウデアアル。今日ノ國際間ニ於ケル日本ノ立場、實際ノ必稟カラ言ヘバ、ドイツト提携シイタリ―ト一緒ニヤツテ行クコトが望マシイノデアアルガ、一度張ラレタドイツニ再ビ手が出セルカ、ト言ツタ氣持が多分ニアルト思フ。然シ日本ノ氣持次第デ、日獨伊ノ關係ハ單ニ形式的デハナク、事實ニ於テモ再ビ昔ニ還シ得ル狀況ニ在ルノデアアル。

カウイフ風ニ獨ソノ條約が出来タトイフコトハ、



Dec 16/16

ドイツノ日本ニ對スル惡意カラ出タモノデナク、不信呼バハリヲシテドイツノミヲ責メル譯ニ行カナイノデアルガ、然ラバコノ獨ソ條約ガ出來タトイフコトハ、日本ニトツテ利益デアルカ、不利益デアルカトイフコトヲ、吾々ハ冷靜ニ考ヘテ見ル必要ガアルト思フ。獨ソ條約ノ結果トシテ先ヅ現ハレタノハ、今日ノ獨對英佛戰爭デアル。獨ソ條約ガ出來ナカツタナラバ、恐ラクドイツハアレダケ強イ政策ハ採ラナカツタデアラウ。獨ソ條約ガ直接ノ導火線トナツテ、コノ戰爭ハ生レタト言ツテ宜カラウ。

私ハ今日ノ歐洲ノ戰爭ヲ無條件ニ、日本カラ見テ神風トカ、天佑デアルトハ考ヘナイ。併シナガラ、何レニセヨ、コノ戰爭ガ起ツタトイフコトハ、日本ノ心懸ケ次第ニヨツテハ、政策ノ持ツテ行キヤウ次第デハ、日本ノ爲メニ有利ニ展開セシメ得ルモノデアルト確信スルモノデアアル。

又獨ソ條約ガ出來タナラバ、ソ聯ハ西ノ方ハ安心デアルカラ益力ヲ遠東ニ向ケルコトガ出來ル。從ツテ日本ニ對スル彼ノ重壓ガ加ハルトイフコトヲ一般ニ感ジタノデアルガ、事實ハコレニ反シ、ソ聯ハ今日日本トノ間ノ關係ヲ調整シヨウト希望

シテ居ル。現ニノモンハン停戦協定モ既ニ出来テ居ル。其後國境劃定問題トカ、新通商條約或ハ利權問題、サウイフ方面デモ着々話ガ進ンデ居ルヤウデアツテ、何トナクソ聯ノ日本ニ對スル感情ガ好轉シテ來テ居ル事實ガ認メラレルノデアアル。悉ク日本ニシテ之ヲ欲スルナラバ、彼等ハ日ソ不可侵條約マデモ締結スル用意ヲ持ツテ居ル。又支那ニ對スル援助、蔣政權ニ對スル援助モ打切ル用意サヘアルモノト私ハ確信シテ居ル。現ニ彼等ハ國民黨ト中國共產黨ヲ分離サセヨウトシテ居ル。コレハソ聯ガ蔣介石ニ見限リヲ付ケテ、中國共產黨ガ國民黨ト共倒レニナル危険ニ捲込マレルコトカラ免レシメヨウトシテ、コノ國共分離トイフコトヲヤラシテ居ルモノト、私ハ認テ居ル。

果シテサウデアルトスルナラバ、獨ソ條約締結ノ結果トシテ、日ソノ關係ガ改善サレテ來タトイフ大キナ事實ガ生レテ居ルノデアアル。此點カラ見テモ獨ソ條約ノ締結ハ決シテ日本ニトツテ不利デハナイト思フ。ソレノミナラズ、日本トシテハ、カウイフ關係カラ更ニ派生スル所ノ色々ノ利益ガアルノデハナイカト思フ。例ヘバ、今日英國ハ蔣介石ヲ援ケ得ナイ、又日本ニ對シテ何等壓力ヲ加

Doc 1616

16.

へ得ナイノハ、獨ソ不可侵條約締結ノ結果トシテ、  
ドイツト英佛間ニ戦争ガ起ツタトイフコトニ原因  
スルノデアアルガ、要スルニソ聯ノ威迫ガナクナツ  
タトイフコトガ日本ニ非常ナ安心ヲ與ヘタ。日本  
ノ地位ガ鞏固ニナツタ。從ツテ英國トシテハ手モ  
足モ出ナクナツタト云ヒ得ルノデアアル。

又同様ノコトガ米國ニ就テモ言ヘルト思フ。米  
國テハ今日頗ニ日ソ接近ヲ氣ニシテ居ル。此ノ點  
英國ト同様、米國ハ日本トソ聯ノ間柄ガ悪クナツ  
テ呉レレバヨイト常ニ考ヘテ居ルノデアアル。コレ  
ハ日本ノ極東ニ於ケル地位ガ強クナルコトヲ恐レ  
ルカラデアアル。ソ聯ト戦争ヲスレバ、日本ハ支那  
ニ於ケル建設ノ手ヲ弛メナケレバナラヌ。彼等ハ  
日本ガ支那ヲ拋棄シナケレバナラナクナルコトヲ  
希ツテ居ル。日ソ間ニ妥協ガ出來ルトイフコトハ  
彼等ニトツテ洵ニ都合ガ悪イコトデアアル。元々米  
國ガ、十六年間承認ヲ拒ンデ來タソ聯ヲ一朝ニシ  
テ認メタノハ、滿洲事變ガ起ツテカラトイフモノ  
ハ日本ハ事毎ニ自分ノ言フコトヲ聽カナイ。而モ  
米國トシテハ一寸日本ニ手下シヤウガナイ。日  
本ニ手ノ届ク所ニアアルノハソ聯ダケデアアル。ソコ  
テソ聯ニ金ヲ貸シ材料ヲ與ヘ、技術者ヲ供給シテ  
コレヲ有力ナモノニシテ、日本ヲ威迫サセヨウト

イフ政策ヲ採ツタノデアル。

ソノ政策ガ成功シテ、日本トソ聯ノ關係ハ今日迄悪クナツテ來タ。日本ハ今迄、支那事變ヲ國力ヲ消耗シテ居ル上ニ、ソ聯トノ關係ガ險惡デ何時戰爭ニナルカモ判ラヌ、ソシテ英國ハ依然日本ニ向ツテ強ク出テキル、コノ上米國ガ押セバ日本ハ參ツテ了フトイフ風ニ考ヘテ居タ。米國ガ通商條約ヲ廢棄シタノモサウイフ考ヘカラデアル。

然ルニコノ日本ガソ聯トノ關係ニ於テ安心ヲ待タトイフコトニナルト、通商條約ノ廢棄位デハ日本ハ中々言フコトヲ難カヌダラワ。ア、イフ手ハ實ハ見込違ヒデアツタト不圖ハ今デハ後悔シテ居ルニ違ヒナイ。ソレデ恐ラク彼等ハ日ソノ關係ガ好轉シ、進ンデ不侵條約ヲ締結シヤシナイカト非常ナ關心ヲ以テ視テ居ルノデアツテ、何ウカシテコレヲ妨ゲタイト考ヘテ居ル。今ノ處デハ日本ノ國論ガ未ダ其處ニ完全ニ一致シテ居ラヌカラ、米國ハ稍々強ク出タラコノ關係ヲ斷念スルカモ知レナイト考ヘテ、多少強ク出ルコトガアルカモ知レナイ。通商條約ヤ支那事變ニ於テ、今後當分ハマダサウイフ行キ方デヤツテ來ルデアラウガ、コレヲトシテハ迂闊ニソレニ乘ゼラレテハナラヌ。

向フガドウ出ヤウガ少シモ心配ハイラヌ。自主的ニ政策ヲ遂行スベキデアル。

カクノ如ク日本ノ今日ノ世界ニ於ケル外交上ノ立場ハ全面的ニ改善サレ、ソ聯ニ向ツテモ今日ハ何等ノ不安ガナイ、英米カラモ壓迫ヲ受ケナイトイフコトニナリツ、アル。コレハ端的ニ云ツテ獨ソ條約ノオ蔭デアル。

然ルニ日本デハ、ドイツハ怪シカラシ、ソ聯ト手ヲ握ツタ。今日ドイツハソ聯ニ引キツリ廻ハサレテ居ル。ソシテ戦争デモ長期ニナレバ、ドイツハ金ガナイカラ負ケルダラウ。サウ言ツタ考ヘ方、サウイフ氣持ガ日本人ノ間ニ流レテ居ルヤウデアルガ、ドイツ邊リカラ見タラ定メシ不愉快ナコトデアラウト思フ。兎ニ角、日本ガカウイフ考ヘ方ヲシテ居ルトイフコトガ、日本ノ今後進ムベキ道ヲ非常ニ暗クシテ居タ。何ヲシテヨイカ分ラントイフノガ、サウイフ間違ツタ考ヘ方ヲ根本ニ於テシテ居ルカラデアル。

抑々獨ソ條約ノ締結ニ至ツタ事情ニ於テ、ドイツ側ニ多分ノ情狀酌量スベキモノガアルノミナラズ、世界歴史ノ觀點カラ見テモ、實ハ獨ソノ提携ハ必然デアツテ、コレハ日獨伊同盟ガ成立シテモ、

Dec 16/16

19.

悉ラク同ジク實現サレタデアラウト思フ。ドイツ  
ノミナラズ日本モヤツタデアラウ。ソシテソレハ  
日本ニトツテ悪イコトデハナイノデ、日獨伊同盟  
ヲ作ツタ上ニ於テ、更ニソ聯ト提携ヲスル。三國  
ノ力ヲ以テソ聯ニ臨ミ、日獨伊ガ、夫々有利ナル  
條件ヲ以テ之ト提携シテ行クノガ本筋デアルト思  
フ。

私ハ昭和十四年七月ノ初ニ、政府ニ對シテ、明  
確ニサウイフ意見ヲ具申シテ居ル。

要スルニ獨ソ條約ガ出來タトイフコトハ何モ不  
思議デハナク、ドイツニ大ニ答ムベキ所ハナイ。  
而モソノ結果ニ於テ日本ノ爲メニ非常ニ有利デア  
ツタコトハ只今述ベタ通りデアル。シテ見レバ、  
日本トシテ、ドイツニ對シテ何等不滿ヲ抱クベキ  
理由ガナイノデアル。支那專横ヲ適ジテドイツナ  
ドガ日本ニ示シタ好意ヲ忘レテハナラヌト思フ。  
勿論今日ノ國際關係ニ於テ、徒ラニ感情ニ捉ハレ  
ル程日本國民ハ單純デアツテハイケナイ。支那專  
横ニ於テ獨伊ガ日本ニ好意ヲ示シタカラトイツテ、  
コレニ大イニ感激シテ、日本ニ如何ニ不利デモ獨  
伊ニ報イナケレバナラヌトイフコトヲ私ハ主張ス  
ルノデハナイ。併シナガラ、今日ノ世界ノ情勢ニ

於テ、ドイツ、イタリ、等ノ全體主義ノ國家群、世界ノ舊秩序ヲ打破シテ新秩序ヲ建設セントシテ居ル獨伊ガ、世界ノ現状ヲ維持シテ行カウトスル英米佛ノデモクラシー國家群ニ打破ラレタトシタナラバ、日本ハ何ウナルデアラウカ、此點ヲ深ク考ヘテ頂キタイノデアアル。

若シ日本ガ全體主義國家群ヲ打破ル爲メニ、デモクラシー諸國ノ爲メニ犬馬ノ勞ヲトツタトスルナラバ、ソシテデモクラシーノ舊勢力ガ再ビ世界ヲ支配スルトイフコトニナレバ如何デアラウカ。英米等ノ目カラ見レバ、今日、日本ハ獨伊ニ劣ラナイ惡者デアアル、侵略者デアルトサレテキル。彼等ガ再ビ勝テバソレコソ此前ノワシントン會議ノ時ノヤウナ生優シイコトデハ済マヌ。必ズ日本ハ支那カラ兵ヲ引ケ、滿洲ヲ返セ、ソレ慮デハナイ、或ハ朝鮮、臺灣カラモ手ヲ引ケトイフコトニナルデアラウト思フ。又日本ノ海軍ハ大島沖ニ全部沈メテ呉レトイフコトニナルデアラウ。サウイフコトハ眼ニ見エテ居ル。

併シナガラ、若シ本當ニドイツガ何ウシテモ英佛ニ勝テヌトイフコトデアレバ、無論日本トシテモ大イニ考ヘナケレバナラヌ。ソレハ不幸ナコト

デアアルガ、預ケルニ決ツテ居ルモノヲ授ケルコトハ出来ナイノデアアルガ、併シ私ハ戦争ノ見透シトシテハ、ドイツガ今度再ビ打張ラレルトイフコトハ何ウシテモ考ヘラレナイノデアアル。

第一ニドイツハ單獨ニコノ戦争ヲ最後迄ヤルカトイフト、私ハイタリীগ戦争ニ入ル、ドイツノ味方トシテ起ツトイフコトヲ相信シテ居ル。又ソ聯トドイツトノ間ハ世間デ考ヘラレル程薄弱不安ナモノデナク、假令宣戰布告ヲシナイ迄モ、ソ聯ハ事實上ドイツ側ニ立ツテ大ナル援助ヲ與ヘルトイフコトハ間違ヒナイコト、思フ。ソシテ今日ノ情勢ニ於テ中立國トナツテ居ルバルカン諸國ノ如キ、寧ろ結局ドイツ側ニ入ルダラウト思フ。其他トルコノ如キ獨伊ソ三國ノ力ニ壓セラレテ英佛カラ離レテ行クノデハナカラウカ。又スペインノ如キモ早晚獨伊側ニ入ルダラウト思フ。要スルニ中立國ハ此前ノ戦争ノ時トハ全然違ツテ、英佛ノ味方ニナル國ハ一ツモナイト言ツテモヨイヤウニ思フ。歐洲ノ小國ハ、大坂ノ方ガ商賣ノコトニ敏感デアルト同様ニ、歐洲大國ノ實力トカ、大國ノ出方、動キニ就テハ非常ニ敏感デアツテ、彼等ノ態度ハ英佛獨伊ノ實カヲ見ルバロメータートモナル。此ノ前ノ戦争ノ



時ト違ツテ、歐洲ノ小國ガ、嚴正中立ヲ守ルトイ  
フコトダケテモ、英佛ノ方ガ非常ニ歩ガ悪イトイ  
フコトヲ物語ルモノト思フ。

ソシテ今度ハドイツハ前同ト違ツテ消耗ヲ極力  
避ケテ居ル。開戦以來三ヶ月餘ニナルガ、未ダコ  
レトイフ消耗戰ヲシテ居ラヌ。コレハカノジীগ  
フリード線ガ出來タ結果デアル。アノ要塞ニ立籠  
ツテ居レバ、ドイツトシテ非常ニ伸縮自在デ、見  
込ミガアレバ何時デモ出ルガ、サウデナケレバ幾  
月デモ、幾年デモ、アレニ據ツテ物ノ消費ヲセズ  
ニ對峙スル。而モ一方背後カラノ物資供給ノ途ハ  
非常ニ今度ハ自由ニナツテ、即チ後庭ガ廣クナツ  
テ居ル。ソシテドイツ國內ニ貯ヘテ居ル物資モ、  
今度ハ此ノ前ニ比シテ非常ニ多イ。軍需品モ澤山  
アル。消耗ハセズ、供給ノ途ハ此ノ前ニ比シテ非  
常ニ裕カニナツテ居ル。總テノコトガ彼等ニトツ  
テ有利デアル。又國家ノ政治經濟ノ體制モ長期戰  
ニ最モ適シテキル。彼等トシテハ單ニ神劍戰、恨  
破ヘ戰デモ決シテ負ケヌ積リテ居ル。

其ノ上空軍ノ非常ナル發達ガ英國ノ海軍力ノ活  
動ヲ頗ル制限シテ居ル。潜水艦ノ性能モズツト良  
クナツテ居ル。今日歐洲ニ於テハ從來ノ海軍ハ最

23,

Doc 1616

早絶對的ナモノデハナイトイフコトヲ指摘シナケ  
レバナラヌト思フ。ソシテイタリーガ參加シ、或  
ハ更ニスベインガ參加スレバ、英國ニトツテ由々  
激一大事デ、單ニ根柢ベテナク、實際ノ戰闘ニ於  
テモ英國ガ打破ラレヤシナイカトイフ危險ガ充分  
アル。

(以下次頁ニ接ク)

サウイフ狀況デ、今日ノドイツハ如何ナル最悪  
 ノ場合ヲ考ヘテモ破ラレルヤウナコトハナイ。  
 今日日本ガドイツニ好意ヲ示シテ、ソシテドイツ  
 側ニ起ツテ戦争ヲシテモ大ナル危険ハナイトイフ  
 コトニナル。而モ歐洲ニ於テ新秩序ヲ建設シヨウ  
 トイフ國ガ勝チ得ルトイフコトデナケレバ、日本  
 國民ガアジアニ新秩序ヲ建設スルトイフコトハ有  
 リ得ナイコトデアアル。歐亞ノ舊秩序ハ大體英佛ニ  
 ヨツテ代表サレテ居ル。ソノ舊イ秩序ヲ維持セン  
 トスル側ガ破レナケレバ、新秩序ハ西洋ニモ東洋  
 ニモ出來ナイ。日本モドイツモイタリイモ共ニ世  
 界ノ新秩序ヲ作ルコトヲ使命トシテ居ル國々デア  
 ル。條約ハ結バナクテモ三國ノ目的ハ一ツデアアル。  
 ドイツ人ハヨク云ツテ居タ。「吾々バ何モ日本  
 ニ歐洲ニ援助ニ來テ呉レトイフノデハナイ。日本  
 ニハ自ラノ使命トシテヤラナケレバナラヌコトガ  
 アル。ソシテ東洋ニ於ケル舊イ秩序ヲ壞シテ新秩  
 序ヲ建設スレバ、ソレデ日本ノ條約ニ對スル義務  
 バ濟ムノデアアル。何デモ東洋カラ英國ノ勢力ヲ驅  
 逐スルコト、ソレガ實バ吾々ガ此ノ同盟ニ於テ日  
 本ニ求ムル所ノ義務デアアル。ソレ以上バ求メナイ」  
 ト。若シソノ義務ヲ果シテ呉レサヘスレバ、同盟  
 等トイフコトハ實ハ問題ニセヌデモ宜イ位ノモノ

ダ。日本ハ東亞ニ新秩序ヲ建設スルトイフコトニ  
 一踏邁進シテ、決シテ舊イ勢力ト妥協セヌ、一步  
 モ讓步セヌトイフ覺悟ヲ以テ、支那事變ノ處理ニ  
 邁進シテ眞ヒタイトイフノデアアル。

即チコレガ又日本ノ立場テノデ、日獨ガ同盟ヲ  
 結バナクトモ、當然日本ノヤルベキコトデアアル。  
 歐洲ノ戰爭ニ介入スル必要ハナイ。日本ガ支那事  
 變ヲ眞ノ意味ニ於テ解決スル、ソレニ邁進スルト  
 イフコトガ、結果ニ於テドイツヲ助ケルコトニテ  
 ル。又ドイツガ現ニヤツテキルコトハ、結果ニ於  
 テ支那事變ノ解決ヲ助ケテキル。現在日本ニ於テ  
 東亞新秩序ノ建設トイフコトニハ何人モ異存ガナ  
 イ所デ、コレヲ飽ク迄モ強調シテソレヲ事實ノ上  
 ニ成功サシテ行クトイフコトガ、日本トシテ最モ  
 努ムベキコトデアリ、又唯一ノ必要ニシテ充分ナ  
 ル政策デナケレバナラヌト思フ。

併シ、支那ニ新秩序ヲ建設スルコトニ邁進スル  
 ト言ツテモ、日本ノ国力ニ限りガアル。今日迄支  
 那事變デ二年餘リ消耗戰ヲ行ツテ來タ。ソノ国力  
 ヲ整理シテソシテ更ニ來ルベキ大キナ努力ニ備ヘ  
 ル爲メニハ、此ノ上大規模ノ戰爭ヲスルコトハ、  
 日本トシテ極力避ケテケレバナラヌ。ソシテ消耗  
 戰ノ危険ノアルノハ日本トシテソ聯ダケデアルト

私ハ思フ。而モソクソ聯ハ日本ト妥協シテ極東ヲ  
 ラ手ヲ引キタイ。彼トシテハ再ビ歐洲ヘ仲間入り  
 出來ル機智ガ廻ツテ來タ。歐洲ノ西ニ南ニ活躍ス  
 ル時機ガ來タ。今更遠隔ノ極東ニ大軍ヲ擁シテ日  
 本ト睨ミ合ヒヲスルコトハ愚デアルカラ、至急ニ  
 不侵略條約デモ結ンデ引揚ゲタイトイフ希望ヲモ  
 ツテ居ル。日本カラ言ツテモ、何ヨリモコレヲ外  
 交政策トシテ第一着手ニ實現スベキモノデアルト  
 思フ。

ソ聯ヲシテ極東ニ安心ヲ與ヘルトイフコトハ、  
 即チ歐洲戰爭ヲシテモツト活潑ニサセル大キナ原  
 因ニナルト思フ。ソ聯ハ極東カラ引揚ゲル兵力ヲ  
 以テ、或ハ近東ヤベルシヤ灣ニ出ルカモ知レナイ。  
 恐ラクドイットシテハソレヲ期待シテ居リ、ソ聯  
 トシテモ希望シテ居ル所デアラウ。ソシテソレハ  
 英國ニトツテハ大キナ脅威トナル。サウナレバド  
 イツカラ言ヘバ非常ニ安心デアリ、イタリーモ初  
 メカラ考ヘタヨリモ早く戰爭ニ參加スルカモ知レ  
 ナイ。ソコデ本格ノ戰爭ニナル。然ルニ今ノヤウ  
 ニドイツカラ言ツテモソ聯カラ言ツテモ、歐洲ニ  
 充分力ヲ入レルコトガ出來ナイトイフ情勢ニ於テ  
 ハ、イタリーモ暫ク中立ノ外ナイトイフコトニナ  
 ルノデアアル。

又英國トシテハ他日ドウシテモ自分ノ國ニ勝目ガナケレバ、或ハ媾和ヲ提議スルカモ知レナイ。ドイツノ方デハ何時デモソノ用意ガアルト言ツテ今日迄ヤツテ來タノデアアル。若シサウイフ風ニ徹底シタ戦争トナラズシテ媾和ニテルトシタナラバ、無論茲ニ國際會議ガ開カレル。其處へ日本モ出テ行ク、米國モ來ルデアラウ。其時ニ若シ日本ノ政策ガ英米トモ妥協スルデモナク、提携スルデモナク、又獨伊ソ聯トモ妥協スルデモナク、所謂自主獨往、誰ヲモ友トシナイトイフ政策ヲ採ツテ居レバ、コノ媾和會議ニ於テ完全ニ日本ハ孤立スルコトニナルノデアアル。

尤モ何時ソノ媾和ガ來ルカハ分ラナイガ、凡ソ媾和ノナイ戦争ハナイ。ソノ媾和モ遲イカ早イカ分ラナイガ、或ハ意外早ク來ルカモ知レナイ。ドチラガ負ケルトイフコトデナク引分ケノ媾和ニナルカモ分ラナイ。其時ニ日本ガ若シ孤立シテ居レバ、結局東洋ノ問題ガ犠牲ニサレ、アジアノ犠牲ニ於テ他ノ部分ノ問題ヲ解決スルトイフコトニナルノデアアルカラ、私ハ今日、日本ノ外交關係ヲ自主獨往、支那事變ニ邁進スルトイフコトヲ言ハズニ、何ヨリモ先ヅ對獨伊ノ關係ヲ元ニ還シ、ソ聯トノ良好關係ヲ作ルガヨイトカウ思フ。而モソレ

ニヨツテ日本ハ何等ノ危険モナイ、不安モナイ。  
 東亞新秩序建設ノ使命ヲ、コレニヨツテ始メテ達  
 成スル途ガ開カレルノダト確信スルノデアアル。  
 私ノ結論ヲ力付ケルモノハ色々アルガ、ソレヲ  
 詳シク述ベル餘裕ガナイノデ、省略スルコトニス  
 ル。

要スルニ、獨ソノ提携ガ出來タ。從ツテ歐洲ノ  
 戦争ガ起ツタトイフコトノ爲ニ、日本ノ國際間ノ  
 地位ハ非常ニ有利ニナツテ來タトイフコトハ間違ヒナイコトデ  
 アツテ、今後政府ノ政策ヲ誤リサヘシナケレバ益々良  
 クナル。コノ有利ナル狀況ヲ利用シテ更ニ良クシ  
 テ行キ、ソシテ東亞百年ノ大計ヲ茲ニ確固タル基  
 礎ノ下ニ樹テルコトガ必要デアアル。コノ千載一遇  
 ノ機會アルニモ拘ラズ、國民ハ何ウシテヨイカ分  
 ラント言フコトデアツテハ困ル。何ヨリモ先ヅ、  
 コノ國內ヲ一本ニスルコトガ急務デアアル。サウシ  
 テコソ初メテ日本ノ外交モ本來ノ軌道ニ還シ得ル  
 ノデアツテ、只今ノ日本ノ有利ナル地位ニ更ニ百  
 歩ヲ進メテ、永久ノ基礎ヲ作ルコトニ、國ヲ擧ゲ  
 テ邁進スベキデアルト思フ。

## III 獨ソ提携問題ト獨逸ノ實力

(昭和十五年二月、  
學士會ニ於ケル講演)

最近ノ日本ノ外交ハ、私ガ先方ニ發ツ迄ハ日獨伊防共摺軸ト云フコトニソノ根本ガアリ、政府モ常ニソレヲ聲明シ、國民モ皆其ノ積リデキタノデアル。然ルニ此ノ支那事變ノ故々進行スルニツレテ獨伊ノ日本ニ對スル援助ト云フモノガ非常ニ有效デアルコトガ國民一般ニ感ゼラレ、更ニ一步メテ、之ヲ軍事同盟ニシヨウト云フ意見ガ出テ來タノデアツタ。

日本國內ニ於テモ、多クノ人達ノ氣持ハソコニアツタト思フノデアツテ、兎モ角獨伊防共摺軸ノ謳歌ノ聲ガ最モ高カツタ時ニ私ハ日本ヲ出發シ、先方ノ端デ微力ヲ盡シテコノ問題ニ貢獻シ度イト云フ氣持ヲ以テイタリニ使ヒシタノデアアル。先方ドイツ及ビイタリニ於テモ、彼等ノヨロツバニ於ケル關係ガ益々重大ニアツテ、サウシテ東洋ノ日本ト結ブト云フコトニ大ナル重要性ヲ認ムルニ至ツタノデアツテ、勿論ドイツ、イタリイモ日本ト同ジヤウニ、或ハ日本以上ニ日獨伊提携ヲ強化シテ行カウト云フ氣持ガアツタノデアアル。日



本ノ氣持モサウデアリ、同ウノ氣持モサウデアツタノデアアルカラ、私トシテモ日獨伊軍事同盟ノ問題ハ左シタル困難ナシニ成功スルデアラウト云フ希望ヲ持ツテ居ツタ。然ルニ先方ニ參リ聞モテク感ジタコトハ、ドイツ、イタリーノ欲スル處ト日本ノ求ムル處トハ相當ノ開キガアルト云フコトデアツタ。ト云フノハ、日本ニ於テハ支那事變ニ於テイギリストカアメリカト云フモノノ大ナル妨害ヲ受ケテ居ルニモ拘ハラズ、是等ノ國ト手ヲ違ツテ行カウ、妥協シテ行カウト云フ氣持ガ非常ニ多イノデアツテ、唯一ツ國內ニ於テ意見ノ一致シタノハソウイエト。ロシヤニ對スル關係ダケデアツタ。ロシヤニ對シテハ多クノ人々ガ公然日本ノ敵デアルト云ツテ居タ。從ツテ日本ノ廟議一致シ得ル限度ハ、主トシテソ聯ヲ目標トシタ日獨伊軍事同盟ト云フコトデアツタ。

然ルニドイツ、イタリーニ行ツテ見ルト、先方ハ稍々其ノ目標ニ就イテノ見方が違フノデアツテ、イタリーノ如キハロシヤト何等利害ノ衝突ガナイ、又ドイツニシテモ當初ハ西ノ方ハ英佛ト妥協シテ專ラ東方ニ向フト云フ政策デアツタノデ、其ノ際ニ日獨防共協定ガ出來タノデアルガ、ドイツノ東方ニ同フ政策ガ着々續ニ着キ、オーストリーヲ併

本ノ氣持モサウデアリ、同ウノ氣持モサウデアツタノデアルカラ、私トシテモ日獨伊軍事同盟ノ問題ハ左シタル困難ナシニ成功スルデアラウト云フ希望ヲ持ツテ居ツタ。然ルニ先方ニ參リ聞モテク感ジタコトハ、ドイツ、イタリーノ欲スル處ト日本ノ求ムル處トハ相當ノ開キガアルト云フコトデアツタ。ト云フノハ、日本ニ於テハ支那事變ニ於テイギリストカアメリカト云フモノノ大ナル妨害ヲ受ケテ居ルニモ拘ハラズ、是等ノ國ト手ヲ搦ツテ行カウ、妥協シテ行カウト云フ氣持ガ非常ニ多イノデアツテ、唯一ツ國內ニ於テ意見ノ一致シタノハソウイエト。ロシヤニ對スル關係ダケデアツタ。ロシヤニ對シテハ多クノ人々ガ公然日本ノ取デアルト云ツテ居タ。從ツテ日本ノ廟議一致シ得ル限度ハ、主トシテソ聯ヲ目標トシタ日獨伊軍事同盟ト云フコトデアツタ。

然ルニドイツ、イタリーニ行ツテ見ルト、先方ハ稍々其ノ目標ニ就イテノ見方ガ違フノデアツテ、イタリーノ如キハロシヤト何等利害ノ衝突ガナイ、又ドイツニシテモ當初ハ西ノ方ハ英佛ト妥協シテ專ラ東方ニ向フト云フ政策デアツタノデ、其ノ際ニ日獨防共協定ガ出來タノデアルガ、ドイツノ東方ニ同フ政策ガ着々續ニ着キ、オーストリーヲ併

Doc 1616

合シ、次イデチエツコヲ解體シ、更ニ進ンデポー  
ランドノ問題ヲ解決セントスルニ當ツテ、ココニ  
英佛ガドイツノ前途ニ立チ懸ガツタノデアアル。即  
チドイツノ東方政策ハ矢張り西方ノ問題ヲ解決シ  
テノ後ニ非ザレバ解決出来ナイト云フドイツノ歴  
史的ナ偏見ト云ハウカ、宿命ト云ハウカ、其ノ事  
實ニ再ビドイツガ違着シタノデアアル。從ツテドイ  
ツハ日本ト結ンデソ聯ヲ打タウ、或ハ東方政策ニ  
於テノソ聯ノ妨害ヲ除去シヨウト云フ政策ニ大テ  
ル頓挫ヲ來シタ。從ツテ獨伊ノ日本トノ提携ニ就  
テ欲スル所ハ、ソ聯ヲ討ツト云フコトデバテク、  
ヨーロッパノ舊勢力ヲ代表スル英佛ニ對スル關係  
ニ於テ我ヲ利用スル、之ニ就イテ日本ニ協力ヲ求  
メ度イトイフコトニ在ツタノデアアル。一方日本ノ  
方ハ、英佛ト妥協シテ一ツソ聯ノ東洋ニ對スル侵  
略ヲ防ガウト云フノデアツタノデ、其ノ間ニ少テ  
カラズ氣持ノ差ガアツタノデアアル。勿論ドイツニ  
シテモイタリニシテモ、日本トロシヤトノ間ニ  
戦争ガ起ツタ場合ニハ日本ヲ助ケル積リデアツタ  
ノデアアルガ、ソレバ彼等ノ主タル目的デバナカツ  
タノデアツテ、此ノ根本ノ氣持ノ差ト云フモノガ、  
日獨伊ノ同盟ガアノ時期ニ於テ出来テカツタ原因  
ト思フノデアアル。

31.

日本が支那問題で段々イギリストノ對立が著シクテツテ來タト云フコトハ争フコトノ出來ヌコトデアツテ、アノ天津問題ニ關スル全國的ナ排英運動ト云フモノガ最モ能ク之ヲ示シテ居ルノデアアル。私ハ、當初コソ專ラソ聯ヲ目標トスルコトガ日本ノ意同デアツタガ、支那問題ノ進行途上ニ於テ日本ノ其ノ考ハ寧ロ改メラレナケレバナラヌノデアハナイカ、ドイツトイタリノ只今述べタ態度ト支那ニ於ケル日英衝突ノ不可避性トニ鑑ミ、日本ノ從來ノ態度ヲ根本的ニ改メテケレバナラヌノデアアルマイカト云フ寧ラ感ジテ居タ。ケレドモ日本ノ氣持ハ何トシテモソ聯ヲ目標トスルト云フコトガ確定的デアリ、出來待レバ英國トハ妥協スル、場合ニ依ツテハアメリカヲモ仲間ニ引キ入レヨウト云フノガ有力方面ノ考ヘデアツタノデア、私ノヤウナ考ヘハ非常ニ實現困難デアルト思ツタノデアツタ。

要スルニ、ドイツハ日本ト違ツテソ聯ノ代リニ英佛ヲ主タル目標トスル、固ヨリ已ムヲ得ズンバソ聯ト戦フケレドモ、ドウシテモデモクラシーノ舊勢力ヲ以テ最大ノ障礙ト見テ居ルト云フコトヲ私ハ斷言出來タノデアアルガ、國內ノ事情ガ前ニ述べタ通りデアルカラ、政府ニ對シテバ、單ニ

Doc 1616

33.

日本ガ今此ノ同盟ヲ結ブコトヲ躊躇スルナラバ、  
ドイツハ必ズソレト結ブデアラウト云フ意見ヲ進  
言シテ后ツタノデアル。然ルニ天津問題ニ關係シ  
テ全圖的ノ併英運動ガ起ツタ。サウシテ是ガ日本  
ノ朝野ノ支持ヲモ待テ后ルト云フコトヲ見タノデ、  
今ヤ躊躇スベキ時期デハナイト考へ、七月初旬ニ  
私ハ「ドイツトイタリーハソレトノ戦争ヲ考へテ  
后テイ、若シ政府ガソレトノ戦争ヲ前提トシテコ  
ノ條約ヲ作ラウトイフテラバソレハ止シタ方ガヨ  
ロシイ、ドイツ、イタリーノ考へヲ自分ガ程度ス  
ルニ、彼等ハ日獨伊ノ同盟ヲ作ツテ更ニソレヲモ  
自分等ノ方ニ引付ケヨウト云フノデアアルヤウニ思  
ハレル。今日支那ニ新秩序ヲ建設スル爲ニハ、ド  
ウシテモイギリスノ代表スル舊秩序ヲ支那カラ取  
除カテケレバアラヌノデアアルカラ、日本トシテハ  
一日モ速カニイギリス、更ニフランスニ對抗スベ  
キ條約ヲ獨伊ト結ンデ、其ノ上ニ日獨伊三國ノ共  
同ノ力ヲ以テソレニ臨ミ、彼ヲシテ東洋カラ手ヲ  
引カセル、蔣介石援助ノヤウナモノモ打切ラセル、  
兵力モ滿ソノ國境カラ引カセル、懸案ノ解決モ逐次  
我ニ有利ニ之ヲ逐ゲテ行ク、此ノ方針ガ日本カラ  
見テ最モ事宜ニ適シテ后ルト自分ハ思フ、若シ此  
ノ際日獨伊ノ同盟ヲ結バテケレバ、恐ラクドイツ  
ハソレト結ブデアラウト云フモソレハ差迫ツテキル、

34.

Doc 1616

躊躇スベキ時期デハナイ、一度ドイツトソ聯ガ結  
ンダ後ニ日本ガソ聯トノ間ノ問題ヲ解決シヨウト  
云フコトニナルト主客顛倒スルカラ日本ノ方ガ分  
ガ悪クナリハセヌカト云フコトヲ、二回ニモ亘  
ツテ詳シク政府ニ進言シタノデアッタ。

(次頁へ續ク)

然ルニ、政府ニ於テハソ聯ト戰フ爲ノ條約ヲ日  
 約ニシテ居タノニ、ソ聯ト和スル爲ノ條約トイフ  
 ノデアルカラ、餘リニモ當初ノ考ヘト違ツテ居ル  
 ノデ、私ノ意見ハ固ヨリ願ミラレナカツタノデア  
 ヲツタ。ノミナラズ天津事件ニアレダケ固シガ沸騰  
 シ、全國民ガ反英ニ熱狂シタアノサ中ニ日英東京  
 會談ト云フモノガ開カレタノデアアル。サウシテ不  
 思議ニモイギリスガ日本ニ譲歩シタ。天津ノ附近  
 ニ於テ、世界ノ目前ニ於テ英口人ガ大ナル侮辱ヲ  
 受ケタ。チエンパレン老首相モ議會ニ於テ自分ノ  
 胸ハ煮エクリ運ル位デアルト言ツテ憤慨シタ直後  
 ニイギリスガ大イナル譲歩ヲシタ。ノミナラズド  
 イツノ外務大臣ハ的確ナル情報トシテ、日本政府  
 ハ英口ニ譲シテ若シイギリスガ支那ニ於テ日本ニ  
 譲歩スルナラバ、日英同盟シ一般のチモノニス  
 ルコトハ日本ハ斷ジテヤラヌト云フコトヲ約束シ  
 タト云フ情報ニ接シテ居ルノデアアル。

元々ドイツ、イタリイカラ見レバ、日本ガ滿洲  
 事變以來大膽ニ執ツテ居ル政策ト云フモノハ、是  
 ハ東洋ニ於ケル古い秩序ヲ破壞シ新シイ秩序ヲ作  
 ラウトスル企テデアルト彼等ハ見テ居ルノデアアル。  
 即チベルサイユ條約ニ依ツテ出來タ處ノ世界ノ現

狀ヲ先ヅ東洋ニ於テ覆サウトスルノガ日本ノ大陸  
 國ニアルト彼等ハ見テ居ルノデアアル。ペルサイ  
 ニ儘備ハ、是ハ東洋ニ於テハワシントン盛制トナ  
 ツテ居ルガ、之ヲ日本ハ覆サウトシテ居ル。滿洲  
 事變ニ於テサウデアリ、海軍條約ノ廢棄ニ於テサ  
 ウデアリ、今度ノ支那ニ於ケル新秩序ノ建設トイ  
 フコトモサウデアルト彼等ハ見テ居ルノデアアル。  
 從ツテ日獨伊三國が提議シテ世界ノ舊秩序ヲ破ル  
 ベキ同盟ヲ作ルト云フコトハ最モ自然デ、此ノ交  
 渉ガ困難デアルトハ彼等ハ豫期シナカツタ。事變  
 自然ノ道理カラ云ツテ當然過ギル條約ト彼等ハ思  
 ツテ居ツタノデアアル。然ルニ是ガ在昔時日ヲ越過  
 シテ、六月ニナツテ日本ガ彼等ノ敵トスルイギリ  
 スト妥協シヨウトスルト云フ情報ニ接シタノデア  
 ル。彼等トシテハ實ニ是位意外ナコトハナカツタ。  
 而モ國ヲ擧ゲテ反英運動シヤツタ直後ニサウイツ  
 事變が生ジテ來タト言フノデアルカラ、彼等コソ  
 日本ノヤルコト、日本ノ國情ト云フモノハ實ニ復  
 雜デアリ、怪奇デアアル、斯ウ思ウタラウト考ヘル  
 ノデアアル。

サウ云フ工合デ、ドイツノ方トシテハ、益々日



本願ムニ足ラズ日本ノ力ヲ倍リテ英佛ニ對抗シヨ  
 ウト云フコトハ望ガナイトイフ氣持ガ強クナツテ  
 來タ。一方ヨーロッパノ情勢ハ益々逼迫ヲ告ゲテ  
 ダンテヒノ問題ニ於テ英佛トドイツノ關係ガ一筋  
 卽發トナツテ來タ。而モ其當時英佛ハソ聯ノ抱込  
 ミヲ策シ、モ、コーニ代表者ヲ送ツテ同盟條約ノ  
 交渉ヲヤツテ居タ。此ノ交渉ヲ見テイタリーガ不  
 安ヲ感ジタデアラウコトハ無理モナイコトデアル。  
 イタリーハドイツトノ間ニ緊密ナル同盟條約ヲ作  
 ツテ居ル。其ノドイツガ日本ト結ブコトモ出來ズ、  
 サウシテソ聯ガ敵側ノ英佛ニ尋ハレテシマフトス  
 レバ、敵ヲ東國ニ受ケテ苦シマナケレバナラナイ。  
 ドイツト運命ヲ共ニスルイタリーガ非常ニ心配ス  
 ルノハ當然デ、ソノイタリーガ獨逸ニ對シテ英佛  
 ソノ同盟ヲ妨ゲヨウデハナイカト云フ事ヲ申込  
 ダトシテモ無理ハナイト思フ。若シドイツニシテ  
 防共協定ニ於ケル日本トノ約束即チオ互ニソ聯ト  
 不可侵條約ヲ結ンデハイケナイト云フ日本トノ約  
 束ニ縛ラレテ目前ノヨーロッパニ於ケル情勢ヲ袖  
 手傍觀シテ居テ自分ノ孤立的地位ヲハツキリサセ  
 ルト云フ事ハ、唯一ノ同盟國イタリーヲモ自分カ

ラ離レサセルコトニナル。而モ日本ハ獨逸ノ敵ト  
 結バウトスルト云フ情報ヲ入手シタノデアアルカラ、  
 ドイツトシテソ聯トノ妥協ヲ急遽ニ策スルコトハ  
 當然デアラウト思フノデアアル。而モドイツノ考へ  
 デハ、日本デハ頻トソ聯々々ト言ツテ居ルガ、東  
 洋ニ於テ本當ニ日本ノ進路ヲ妨ゲテ居ルノハソ聯  
 デナクシテ、イギリスデアアル。今ドイツガソ聯ト  
 不侵略條約ヲ結ベバ東洋ニ於テモ英國ノ地位ヲ弱  
 メル結果トナルコトハ日本モ臆テ諒解スルデアラ  
 ウト考へテ居ツタト思フノデアアル。サウ云フ次第  
 デ、遂ニ八月下旬獨ソ不侵略條約が出來タノデア  
 ヲツタ。尤モコノ不侵略條約ト云フモノハ一頁一夕  
 ニシテ出來タノデアハナイノデアアツテ、既ニ一九三  
 八年頃カラヒトラ一總統ヲ初メソ聯ニ對シテ餘リ  
 毒舌ヲ吐カナクナツテ來タ、ソ聯ノ惡口ヲ餘リ言  
 ハナクナツテ來タノガヲカシイト私ハ感ジタノデ  
 アルガ、其後ソ聯ノ内部カラドイツ及ビイタリー  
 ニ對シテ働キカケテ來タ。即チ防共極軸ニ對シテ  
 ソ聯ガ手ヲ延バシテ來タ。今年ノ四月頃リツベン  
 トロツブ外相モ我々ニ向ツテハツキリ云ツテ居ル  
 ノデアアル。日本ガドウシテモドイツト同盟ヲ結バ

ナケレバ、我々ハソ聯ト一語ニナラナケレバナラ  
 又。日本ガ來ルナラ百ノ政策デ行クガ、日本ガ來  
 ナケレバ五十ノ政策デ行カナケレバナラナイト言  
 ウテキタノデアアル。コレハ勿論政府ヘ電報シタノ  
 デアルガ、日本デハ我々ガドイツカラ恫喝サレタ  
 ノデアルト云ウテキタノデアアル。

サウ云フ次第デ、遂ニ獨ソノ條約ガ出來タ。其  
 ノ時ニドイツ當局ハ日本ニ對シテ之ハ誠ニ相濟マ  
 又、前以テ了解ヲ得テ置ケバ宣イノデアアルガ、日  
 本ニサウ云フコトソ言ヘバ必ズ四十八時間以内ニ  
 全世界ノ新聞ニ出テシマフ。コレハ今迄幾度モ起  
 申シタコトデアアルカラ、何分ニモ日本ニ前以テ知  
 ラセルト云フコトハ出來ナカツタ。何ウカ惡ク思  
 ツテクレルナ、法律上ヤ形式上ニ拘ハツテ我々ガ  
 條約ニ背イタ、不信ダト云ツテ兵レルナ。此ノ急迫  
 シタ情勢ニ於テ誠ニ背ニ腹ハ替ヘラレヌノデアアルカラ惡ク思ツテ  
 兵レルナ。併シ乍ラ今日ニ於テモドイツノ日本ニ對スル感情ハ少  
 シモ變ラヌ。兩國ノ關係シ益々緊密ニシタイ念慮  
 ハ依然持ツテ居ル、就テハ日本モソ聯ト一ツ安  
 心シテ兵レナイカ、若シ其ノ考ヘガアルナラバド  
 イツハ轉旋シテモ宣イト云フコトソ一度ナラズ誤  
 返シテ日本側ニ言ウテ居ルノデアアル。即チ私が始

ニ進ベタ通り、先方ハソ聯トノ戦争ハ考ヘテ居ラズ、日獨伊同盟ガ出来タラ、ソレニソ聯ソモ参付ケヨウト云フ考ヘデアツタト云フコトハ之ニヨツテ裏替キサレテ居ルト思フノデアアル。

アノ獨ソ條約ガ出来タ直後、伊太利モ此ノ條約ヲ非常ニ歡迎シテ居タ。之ニヨツテ歐羅巴ノ戦争ハ起ラズニ済ムデアラウ。今後日ソノ關係モ良クナリ萬事日本ニ非常ニ都合ガ好クナルダラウト云ツテ居ツタノデアツテ、イタリーガ獨ソノ接近ヲ快シトシナイトカ、或ハソ聯ニ對シテ敵意ヲ持ツテ居ルト云フコトハ、私ノ先方ニ居ツタ頃ノ印象カラハ出テ来ナイノデアアル。

何レニセヨ、ドイツトイタリーハ此ノ獨ソ條約ガ出来タト云フ事實ニ拘ラズ、今日ト雖モ依然トシテ日本トノ提携ニ非常ニ重キツ置イテ居ルト云フコトガ出来ルノデアアル。今日、日本トドイツ、イタリートノ關係ハ獨ソ不可侵條約ノ出来ナカツタ以前ト表面ハ變ラナイコトニナツテ居ル。タダ日本ノ國民ノ感情ガ何トナク釋然トシナイ。何トナクドイツニ裏切ラレタト云フヤウナ氣持ガシテキル。是ハ一ツニハ今進ベタヤウナ、如何ニシテ

日獨伊同盟關係が破綻ニナツタカト云フコトニ關シテ國民ノ間ニ正確ニ分ツテ居ラヌト云フコトト又日獨伊同盟ヲ不調ニ終ラシメタ州部ノ勢力及ビ國內ノ勢力、其ノ同盟ヲ欲シナイ諸勢力が日獨伊同盟ヲ破ルコトニ成功シタ餘勢ヲ以ツテ、更ニドイツニ對スル反應ヲ募ラセルヤウニ策動シタト云フコトヲ認メナケレバナラヌノデアアル。今日ノ外報デアツテ、是ガ日本ノ同盟ヲソノ方向ニ動かサウカト云フコトニ大重ニナツテ居ルト云フコトハ、我々トシテハ忘レテハナラヌコトデアルト思フ。

日獨伊同盟が出来居タナラバ、日本ハ今日直チニヨーロッパノ戰爭ニ入ツテキハシナイカ、アノ同盟が出来ナクテ宜カッタ。今考ヘテモゾツトスルト云フヤウナコトヲ言フ人がアルガ、併シ乍ラソレハ私ハ根本的ニ間違ツテ居ルト思フ。若シ日獨伊同盟が出来居ツタナラバ、今日ノ戰爭ハナクシテ済ンダカモ知レナイ。英領が逐次外交的ニ後退シテ、日本ハ支那ニ於テ、獨伊ハヨーロッパニ於テ平和ノ中ニ懸案ヲ解決シテ行くコトが出来タラウ。獨伊ハ始カラ是こそ眞ニ平和ヲ目的ト

スル條約デアアル。元々日本トドイツ、イタリト  
ハ共同ノ運命ニアルノデアアルカラ、バラバラニナ  
ツタラ環被サレルガ、一語ニナツテ居タナラバ到  
底破ラレルモノデアハナイ。此ノ條約ハ本來精神的  
ナモノデアアルカラ、何處ノ國ガ餘計利益スルナド  
トイフコトハ言フベキモノデアナイガ、此ノ同盟ノ  
現實ノ効果ヲ世ニ示スコトモ必要デアアルカラ、差  
當リ現ニ支那ニ於テ戰爭シツツアル所ノ日本ヲ助  
ケテ一日モ早ク支那事變ノ處理ヲサセル、之ヲ以  
テ世間ニ同盟ノ眞價ト成力ヲ證明スルガヨイト云  
フコトヲ先方デアハ云ツテ居ツタノデアアル。

從ツテ今年ノ四月頃迄ニ日獨伊同盟ガ出来テ居  
ツタラ、ソノ結果ハ日本ニ非常ニ有利ナモノガア  
ツタラウト思フ。勿論ノモンハン事件ト云フヤウ  
ナモノモ起ラナカツタデアラウシ、又ダンヂヒノ  
問題デイギリスガアレ程強ク出ルト云フコトハア  
リ得ナカツタラウト思フノデアアル。

假リニドイツガヨーロッパニ於テ急ニ問題ヲ解  
決シヨウトシテ英佛トノ間ニ戰爭ガ起ルヤウナコ  
トガアツテモ、日本トシテ今戰爭ニ参加スルノハ  
都合ガ悪イト云フコトナラバ、中立ヲ守ルコトニ

了解が得ラレタコトト思フ。日獨伊同盟條約が出  
 來ルト同時ニ三日ノ外務大臣が集マツテ三日ノ外  
 交方針ニ就イテ協議スルト云フコトニナツテ居ッ  
 タノデアツテ、悉ク其際ニソ聯及ビ支那ヲドウ  
 シヨウ、ダンテヒ、又ハポーランドノ同盟ヲドウ  
 スルカト云フコトが議セラレルコトニナツテ居ッ  
 タノデアツテ、日本ハ勿論大ナル發言權ヲドイッ  
 及ビイタリーノ外交政策ニ關シテ持ツコトが出来  
 タノデアアル。若シ英佛ト戦争ヲスルナラバ日本ハ  
 今支那事變ノ後ヲ受ケテ直チニ有効ナル援助ハ出  
 來テイゾ、今オ前道ダケテ確信ガアルナラヤレト  
 云フコトが出来タ筈デアアル。現ニイタリーモドイ  
 ットノ間ニ軍事同盟ガアルニモ拘ラズ中立ヲ守ッ  
 テ居ルト云フ例モアルノデアツテ、日獨伊同盟が  
 出来テ居タナラバ、日本ハ嫌デモ應デモヨロツ  
 パ戦争ニ入ツテ居ナケレバナラナカツタデアラウ  
 ト云フコトハ必ズシモ言ヘナイト思フノデアアル。  
 ソレヨリモ、前ニ述べタ通り三日同盟が出来テ  
 居タナラバ獨對英佛ノ戦争モアノ時期ニハ起ラナ  
 カツタト思フ。ドイッモイタリーモ今日ハマダ外  
 交的ニモ、経済、財政、又軍備ノ方面カラモ色々

ト準備スベキコトが澤山アル。第一日本ニ於テモ  
支那問題ヲ解決シテ多少息ツクコトが必要デア  
ルノデアアルカラ、戦争ハ出来得ル限り延バサレタ  
デアラウ。各□トモ總テ軍備ガ十分ニ出来、外交  
上ノ關係モ好クナツタ上デ此ノ戦争ヲ決意シ得タ  
ト思フ。日獨伊同盟ガ出来タナラバ、我々が此ノ  
苦シイ中デイギリストカフランスト戦争シナケレ  
バナラナカツタデアラウトイフノハ、實ハ根柢ノ  
ナイコトデアアルト云ヒ度イノデアアル。

獨ソ不長時條約ガ出来タニ就テドイツ側ニ深ク  
咎ムベキ所ハナイ、寧ロ日本側モ反省シナケレバ  
ナラヌモノガアツタト云フコトヲ先程述べタ。然  
ラバ此ノ獨ソ條約ガ出来タ結果、日本ノ之ニ依ツテ受ケタ影響ハ  
ドウデアアルカト云フコトモ考ヘナケレバナラヌト思フ。勿レ若シ  
ドイツガソ獨ト結ンダナラバ、ソ獨ハ兵力ヲ益々極東ニ向ケルダ  
ラウカラ日本ハ非常ニ苦ルシマナケレバヌト世間デハ考ヘ  
タ。又我々モソレヲ惧レタノデアアル。然ルニ、事  
實ニ於テハソノ反對ニ日本ニ對スルソ獨ノ氣持ハ  
逆ニ好シクシテ來テ居ルト思フノデアアル。ノモンハ  
ソノ休戰協定モ先方ハ寧ロ待ツテ居マシタト云ハ  
ンバカリニ忽チニシテ出来タ。ソレカラ國境劃定



委員會トカ、通商條約トカ其他ノ問題ニ關スル交  
 渉ハ、日英ハ喜ンデ日本ト是ガ談判ニ當ツテ居  
 ル。ノミナラズ私ノ見ル所デハ、日本トノ間ニ不  
 侵條約ヲモ作り度イト云フコトヲ考ヘテ居ル。  
 是ハ私ハ思フニ、彼等ハ、從來ヨーロッパカ  
 閉メ出シヲ喰ツテ居タ。然ルニ今度ドイツトノ不侵  
 條約ガ出來テ、私ハ此ノ不侵略條約ハ殆ト同盟  
 ノ關係ニナツテ居ルト見テ居ルノデアアルガ、此ノ  
 ドイツノ提携ノ結果、彼等ハ又西ノ方ヘ歸ルコト  
 ニナツタ。バルチックニ歸ルコトガ出來ルヤウニ  
 ナツタ。即チ極東ニ於テ懾慄ナル日本ト睨ミ合ヒ  
 ラシテ居ルベキ時期デハナイ。彼等ガ民族トシテ  
 モ多年憧憬シテ居ツタ所ノヨーロッパノ西ニ南ニ  
 歸レルト云フコトニナツタ。此ノ上ハ日本ト妥協シ  
 テ極東ノ方ハ安心シテ居ラレルヤウニシ度イ、ソ  
 レガ彼等ノ願望デアアル。シテ見レバ今迄日本ノ支  
 那問題解決ヲ妨ゲテ來、蔣介石ヲ助ケテ來タ一方  
 ノ大キナ力ヲ除クコトガ日本ノ決心次第デハ直チ  
 ニ出來ルヤウニナツタト云フコトデアアル。  
 ソレカラ又此ノ獨ソ條約ノ結果、ドイツガポー  
 ランドノ問題ヲ急遽ニ解決シヨウトシタノデヨー

ロツパ戦争が起ツタノデアルガ、此ノ戦争ハ日本ニ取ツテ無條件ニ天佑デアルトカ、神風デアルトカ云フコトハ出来ナイト思フ。日本ガヨーロッパノ新舊勢力ト云フモノヲ正シク認識シ、之ヲ日本ノ根本政策デアル所ノ支那ニ於ケル新秩序建設、ト云フコトニ關連セシメテ考へ、サウシテ日本ノ政策ヲ立テ、行クナラバ、私ハヨーロッパ戦争コソ日本カラ見テ天佑ト言フベキモノデアルト思フノデアル。此ノ點カラ見テモ獨ソ條約ノ結果ハ我ニ有利デアツタト言ヘルト思フ。サウシテ是ハ間接ニナルガ、其他イギリスニ對スル關係、或ハアメリカニ對スル關係ニ於テ獨ソノ接近ト言フモノガ非常ニ日本ノ立場ヲ好クシテ居ルト云フコトハ争フコトが出来ナイト思フ。

今日マデアメリカハ支那問題ニ於テ常ニ日本ニ反對シテ居ツタノミナラズ、日米通商條約ノ廢棄ト云フヤウナ積極的ナ手迄打ツヤウニナツタ。之ハ何故デアアルカト云フト、日獨伊ノ防共樞軸ノ背後ニハ何カアルノダラウ、日本ハ孤立デハナイト思ツテ居タ。然ルニ日獨伊同盟ノ交渉ガウマク行カナクテ其後デ獨ソガ接近シタコトニ依ツテ日本

ハ完全ニ孤立シタ。既ニ日本ハ支那ト戦ツテ疲レ  
 切ツテ居ル。支那ニ於テ戦ツテ居ル日本ハ獨伊ト  
 ハ何等ノ關係モナク、孤立シテ居ルノダ、ソシテ  
 ソ聯トハ一獨即發ノ關係ニ在ル、今アメリカカラ  
 一押シ押シタナラバ、日本ハ支那カラ手ヲ引クダ  
 ラウト見タノデアアル。然ルニ獨ソ條約ノ結果、ソ  
 聯ガ東洋カラ手ヲ引カントシ、ヨーロッパ戦争ノ  
 タメニイギリスモ手ヲ引カザルヲ得ヌコトニナツ  
 タノデ、アメリカガ一人デ日本ヲ引キ受ケナケレ  
 バナラヌヤウニナツテ來タ。而モソ聯ガ事實日本  
 ト結ブカモ知レナイ。是ハアメリカトシテ大キナ  
 荷物ヲ負ハサレタト云フコトニナルノデアアル。ア  
 メリカハ、日本ガ疲レテ居ルノデアアルカラソレ位  
 ナコトハ出來ルト思ツテ居タノデアラウガ、日本  
 ノ不利ニナルト思ツテ居タ獨ソ條約ガ有利ニ展開  
 シタ。加之他方アメリカガ今日迄獨伊ニ對シテ取  
 ツテ來タ態度ト云フモノハ英佛ト一ツデアアル。ア  
 メリカガ果シテヨーロッパノ戦争ニ入ルカドウカ  
 ト云フコトハ問題トシテモ、既ニソノ危険ハ十分  
 ニアル。最悪ノ場合ヲ考ヘレバ、米國ハ獨ソト云  
 フヤウナヨーロッパニ於ケル大口ヲ向フニ廻ハシ

テ戦争シナケレバナラヌカモ知レナイ、サウイフ  
 虞レガアルアソリカトシテハ日本ニ壓迫ヲ加ヘル  
 トイフコトハナカナカヤリ切ラヌ筈デアアル。非常  
 ニ危険デアアル。思フニ米國トシテハ、日米條約ノ  
 廢棄ヲ通告シタコトハ今日ハ悔イテ居ルデアラウ  
 ト思フ。張リアゲタ等ノヤリ場ガナイトイフカタ  
 チデアアル。コレモ獨ソ條約ノ影響デアアルト思フ。  
 果シテ然ラバ獨ソ條約ニ對シテ日本ハ何等不平ヲ  
 持スベキ筋合デアナイト思フデアアル。アノ條約  
 ガ出來タ爲ニ日本國民ニ於テ何等カドイツニ對シ  
 テ釋然タラザルモノガアリトスルナラバ、ソノ氣  
 持ハ一擲スベキモノデアナイカト思フデアアル。  
 否ナラドドイツニ感謝シテ然ルベキデアアルト思フ。  
 恨ム理由ハ毫モナイデアアル。ト云ヒ度イノデア  
 ル。

(以下次頁へ移ク)

併シ乍ラドイツハ現ニ戦争ヲシテ居ル、此ノドイ  
 ツガ英米佛ノ宣傳スル如ク忽チニシテ負ケルトス  
 レバ、是ト懸念ニスルコトハ危険デアルト云フモ  
 ノガアル。甚ダ面白クナイ物ノ云ヒ万デアルガ、  
 私ハ必ズシモ反論ンナイ。若シドイツガ破レルナ  
 ラバ、是ト好クシテ置クニトハ利益デナイ。併シ  
 乍ラ私ハドイツハ決シテ負ケナイト思フ。此ノ前  
 ノ戦争ヲ記憶シテ居ル人ハ、長期ニ亘ツタナラバ  
 ドイツハ必ズ経済的ニ負ケテシマフト言フ人モア  
 ルケレドモ、ソレハ今日ノドイツノ實力ヲ十分考  
 ヘナイカラデアアル。

日本アタリデハヒトラーハ政權ヲ握ツテカラダツタ  
 タ六年ニシカナラヌ、経済力モ、軍備モマダ十分  
 デハアルマイト言ツテ居ルケレドモ、今ノドイツ  
 ハサウ云フ人ノ見ル所トハ大差違フ。千九百十四  
 年ニ比ベテ、今日ノドイツハ實力ニ於テ數倍ノモ  
 ノガアル。經濟ニ於テ軍備ニ於テ千九百十四年ニ  
 比ベテ幾倍カノモノヲ持ツテ居ル。一體前ノヨ  
 ロツパ戦争デハドイツバカリデナク、フランスモ  
 イギリスモ打撃ヲ受ケテ居ル。イギリスノ力ハ過  
 去ノ富ノ蓄積ガ大部分デ、ソレガ戦争ニ使ツテ著

シク減ツタ、其ノ打撃ムドノ位大キイカ、御承知  
 ノ通り今日ニ於テモマダ償ハレテ居ラナイノデア  
 ル。併シドイツノ刀ハ人間ニアル、ソノ受ケタ打  
 撃ハ主トシテ人間ノ損傷デアル、是ハ二十年ニシ  
 テ完全ニ癒サレテ居ル。アノ戦争ニ於テドイツノ  
 都市ハ勿論少シノ領土モ荒サレテ居ラヌ。唯ベル  
 サイユ條約ニ於テ兵刀ハ十萬ダケトスルトカ、潛  
 水艦ヲ持ツテハイカヌト云フヤウナ制限ヲ受ケタ  
 ダケデ、國民ノ復興ト云フモノハ休戦ノ翌日カラ  
 着々進行シツツアツタ。例ノ賠償金ノ如キハ殆ド  
 天文学的ナ数字ニ達シタノデアルガ、實際ドイツ  
 ニ於テ拂ツタモノハ、金ト物ト價值カニ三億圓餘リ  
 ト私ハ記憶シテ居ル。而モイギリス及特ニ米國ハ  
 ドイツガ參ツテシマツテハイカヌト云フノテズン  
 タ々金ヲ貸シテ居ル。アメリカダケデモ四五十億  
 ドルト云フ金ヲドイツニ貸シテ居ル。結果ニ於テ  
 ハドイツハ、アベコベニ四五十億ドルノ賠償金ヲ  
 貰ツタ様ナモノデアル。又有名ナインフレーション  
 ンデ獨逸ハ一層ガラガラニナツテシマツタト言フ  
 人モアル。

成程インフレーションハ、ドイツノ中産階級ニ大

打撃ヲ與へ一般社會生活ニ頗ル惡イ結果ヲ齎シタ  
 ノデアルガ、併作之モ必ズシモ禍ダケデハナカツ  
 タノデアツテ、ドイツノ株式會社ト云フモノハ、悉  
 悉クアノ、インフレーションニ依ツテ借金ガ濳引  
 ニナツタ。ソレデアルカラ戰後最新ノ機械ヲ拵付  
 ケタノハドイツノ會社デアル。従ツテ戰後ノドイ  
 ツノ工業刀ハ到底、英佛ガ活抗出來ナイモノニナ  
 ツタ。ソノ工業刀ニ依ツテドイツノ復興ハ目覺マ  
 シイモノガアツタ。戰爭デ皆無クナツタ商船ナド  
 モ忽ニシテ四五百萬噸ノモノガ出來、殆ンド日本  
 ト同噸數ニナツテ居タ。其ノ他農村ナドモ眼ニ見  
 エテ復興シタ。ヒトラীগ天下ヲ取ツタ時ニドイ  
 ツハ既ニ完全ニ國刀ヲ回復シテ居ツタノデアル。  
 唯形式ノ上デハベルサイユ條約ニ依ツテ縛ラレテ  
 居タ。ヒトラীগ起ツト共ニ此ノ條約ノ桎梏ヲ一  
 ツ一ツ斷ツテ行ツタ。一ツノ絆ガ斷タレル毎ニド  
 イツノ充實シタカハ撥ネ上ツタ、遂ニ一切ノ拘束  
 ヲ脱シテ全力ヲ發揮シ得ルニ至ツタノガ今日ノド  
 イツデアル。

ドイツノ復興ハヒトラীগ治世ノ六年デハナク戰後  
 ノ二十年ニ亘ル歲月ノ所産デアルコトヲ忘レテハ

ナラヌ。ソレカラヒトラーガ國內カラユダヤ人ヲ  
 排斥シタト云フコトハ、民族ピユリテイーヲ保ツ  
 ト云フ民族主義カラ來テ居ルト考ヘラレテ居ツタ  
 。我々ハソシナニ極端ナ異民族排斥ハイケナイト  
 思ツテ居タノデアアルガ、然ルニドイツ人一般ノ考  
 ヘテ居ル所ハ前大戦デドイツノ負ケタノハユダヤ  
 人ノ爲ダ、ユダヤ人ガ國內戦線ヲ擾亂シタカラダ  
 コノ禍子身中ノ蟲ヲ一掃シナケレバ戦争ハ出來ヌ  
 ト云フノデアアル。即チユダヤ人排斥ハ戦争ノ準備  
 ト見ナケレバナラヌ。今日トナツテ見レバソノ爲  
 ニドイツノ國內戦線ハ非常ニ強化サレタワケデア  
 ル。又ドイツ國民ハ何レモ英佛ニ對スル復讐心ト  
 云ハフカ、ベルサイユ條約ニ對スル絶大ナル不滿  
 ヲ抱イテ來タノデアアル。出來タテノ小サナ隣國カ  
 ラ散々馬鹿ニサレタ、フランスガ之等ノ小國ヲ逐  
 ネテ獨逸ヲ包圍シ壓迫シタ。コノ不潔ハヒトラーガ  
 國  
 ガ出テ來テカラハ悉ク除カレタ。國民一般ノヒトラ  
 ラーニ對スル感情ハ素晴ラシイモノデ、立派ナ學  
 者達デモ、ヒトラーハ神ガ獨逸民族ヲ救フ爲ニ降  
 シタモノト信ジテ居ル。又獨逸ニハ物資ガナイ國



民ノ生活ハ甚慘ダト云フモノガアル成程、短時間  
 間ニアノ大準備ヲ作り上げタノデアアルカラ國民  
 生活ニ對スル重壓ハ大キイ、統制ハ徹底シテ居ル  
 。併シ、國民ノ生活ハ外間ニ宣傳サレル所トハ大  
 イニ違ヒ、ナチ政權以前ニ比シテ著シク改善サレタ  
 決シテ窮乏シテ居ルトハ云ヘナイノデアアル。サウ  
 シテ國內何處モ此處モキレイニ望ミシテ居ル。聞  
 イタコトモナイ名モナイ町ニモ煙突ガ林立シテ盛  
 ニ黒煙ヲ吐イテ居ル。田舎ノ停車場デモ機關車ヤ  
 貨車ガ驚ク程澤山アル、實際見タ人デナイト、ドイ  
 ツノ實力ハ信ジラレナイノデアアル。  
 ドイツノ國內ハコノ通りデアルガ、ソノ對外關係  
 ニ於テモ著シク有利ニナツテ居ル。例ヘバロシヤ  
 ハ今日ドイツト同盟關係ニアル。此ノ前ノ戰爭ノ  
 時ニハ三箇年間ハドイツハ、二百萬ノ大軍ヲロシ  
 ヤニ當テテキタ。而モフランスヤイギリスノ外ニ  
 イタリートモ、セルビヤ、ルーマニヤ等トモ戰爭  
 ヲシナケレバナラナカツタ。併シ今日ハ西万ノ單  
 一戰線ニ全カヲ集中シ得ルノデアアル。而モココニ  
 ハジグフリードノ要塞ガアル、難攻不落デアアル。  
 之ニ依ツテ守レバ何年戰爭ガ續イテモ平氣デアアル。

ドイツハ此ノ方面デ少シモ消耗戦ヲシテ居ラヌノ  
 デアル。必要ナラバ此ノ調子デ幾年デモ急ケテ行  
 ケルノデアアル。始カラ蓄ヘテアルモノモ此ノ前ノ  
 幾倍カニ達シテ居ル。ソシテ今度ハソ聯、バルカ  
 ン及ビスカンチナヴィア、ノ方カラ自由ニ世給ッ  
 受ケラレル。消耗ノ程度ハ自由ニ伸張シ得ル。獨  
 逸トシテハ頗ル勝手ガヨイ。今度ノ戦争ハ英佛ト  
 ドイツガ、ヨーロッパノ覇權ヲ決定的ニ争フ時期  
 ガ來タノダト言ツテ、ドイツハ大臺ヲ取ツテ居ル  
 ノデアアル。此ノ前ノ戦争ニ於テハ、ドイツトシテ  
 ハ短期間ニ戦争ヲヤツテシマハナケレバナラナカ  
 ツタ。即チ短兵急ニフランスヲ襲ツテ近ス刀デロ  
 シヤヲヤツテシマハナケレバナラナカツタノデア  
 ル。前ハフランスト、ドイツトヲ隔テル障壁ガナ  
 カツタカラ、イヤデモ諸戦役ニ大消耗戦ヲヤラ  
 ネバナラナカツタノデアアル。今日デモ、ジューグフ  
 リド線ト云フモノガナイナラバ、忽チ英佛ノ大臺  
 ト對立シテ戦ハナケレバナラナクナル。サウスル  
 ト、イタリーモドイツトノ同盟ノ手前見テ居ラレ  
 ナイ直ニ本陣ノ大戦争ニナツタデアラウ。然ルニ  
 今度ハ、ジューグフリード線ガアルカラ獨逸モ英ガ

ナイ。取等ツヤリナガラ、ユツクリ進歩ヲ進メテ  
 居ル。従ツテ、イタリーノ援助モ求メナイ。ウガ  
 イタリーガ中立ヲ守ツテ居ル所以デアルト考ヘル。  
 抑モドイツヤイタリーノ益々主義ノ隆盛ハ、彼等  
 トシテハ之ガ歴史ノ當然ノ進歩ヲ代表スルモノデ  
 アツテ、英佛ノ自由主義、個人主義等似ト云フモ  
 ノハ亡ブベキモノデアル。故ツテ儘イテモ亡ビル  
 モノデアル。獨伊等ノ力強イ新體制ト英佛ノ倒レ  
 謝ツタ自由主義體制トデハ唯對峙シテ居ルダケデ  
 先方ガ根柢ケヲシテシマフノデハナイカト云フコ  
 トヲ彼等ハ狙ツテ居ルト思フ。ドイツトシテハ、  
 ジーグフリード線ニ立テ對ツテ英佛軍ノ精銳ヲ消耗  
 サセル一万、空軍ト潜水艦ヲ以テ英國ニ舟楫ノ止  
 メヲ刺サウト考ヘテ居ルト見ラレル。併シ歐陸ハ  
 今ウ簡單ニハ行カヌト思フガ、今ヒノ新舊兩勢力  
 ノ對峙ハ、新シイ勢力ニ十分勝味ガアルト私ハ信  
 ジテ居ル。ソレハロシヤモイタリーモソシテ、日  
 本モ英佛ニ附クト云フコトデアツテハドイツトシ  
 テモ大膽デアルガ、今日ハソウイフ事ハナイ。イタ  
 リーニ就テハ世間デハイタリーハ、マタ洞ガキ  
 ヲヤツテ居ルト申スモノモアツタガ、千九百十四

年ニ於テハ、イタリ―ハ色々ト弱點ガアツテ、ドウシテモイギリスニ附ク外ハナカツタ。

然ルニ、ムツソリ―ニガ悉ツタ結果、西日ヲ一新シテ居ル。ナカナカ英佛ガ同盟ニドウスルコトモ出来ナイダケノ實ヲ持ツテ居ル。コノ前ノ英佛ニ英佛カラ強要サレテ、イヤテモ強合體ニ走ラザルヲ得ナカツタノトハ益々事情ガ變ツテ居ルノデアル。イタリ―ハフアツシヨ政治ノ十七年間ニ政治ノ力ノ及ブ限りノ發展ハ遂ゲ終ツタ。此ノ上彼等ガ併ビルニハ俄土ヲ避ケルルナイ。ムツソリ―ニノ言ツタ如ク、イタリ―ハ今後エクスパンドスル方、エクスプロードスルカシナケレバナラヌ。一國ニイタリ―程ノ無イ國ハナイ。ソシテ人口ハ年々四十三萬増シテ行ク、發展スルカ、破産スルノ外ナイノデアル。

然ルニ地中海ノ周圍ハ殆ド英佛ノ勢力範圍バカリデアル。從ツテイタリ―ノ發展ハ英佛ノ勢力ヲ地中海カラ驅逐スル、英佛ノ犧牲ニ於テスルハナイノデアル。英佛ニ強クト云フコトハ地理ノ代價ヲ得ナケレバイタリ―トシテハ考ヘラレナイノデ

アル。時勢が急レバイタガハドイットノ同盟ニ  
 参イテ戦争ニ参加スルモノト私ハ考ヘル。イタリ  
 ーガ戦争ニ入ルト云フコトハドイツトシテモ非常  
 ニ有害デアツテ、英國ハソノ物資ノ二割餘ヲ中  
 海ルートニ由ツテ得テ居ル。之ガ完全ニ止マルコ  
 トニナル。フランストシテモ、アフリカトノ聯絡  
 ガ断タレル、英領トシテハ容易ナラヌコトデアル。  
 ドイツガジグワリード線ヲ橋ニ英領ト對峙シテ  
 居ル間ニイタリーモ入り、ソモ参加スルトイフ  
 コトニナレバ、是ハイギリストシテハ由々シキ一  
 大害デアルト考ヘルノデアル。  
 日本ノ多クノ人ハ戦争ハ海軍デキマルト簡單ニ考  
 ヘルケレドモ、今日ノヨーロッパニ於テハサウデ  
 ナイ。イギリストシテハ海軍ガナケレバ直ニ益害  
 一ツガ瓦解スルノデアツテ、絶対必要デアルガ、イ  
 ザ戦争ノ場合ニハ、戦國用トシテハ獨伊ニ對シテ  
 餘リ效果ガナイ。ドイツナドハ海軍ハナクテモ國  
 ハ立ツノデアルカラ之ヲ惜氣モナク犠牲ニシテモ  
 宜イ。英國ノ海軍ヨリハ身軀デアル。英國ノ大軍  
 ナ海軍ハヨーロッパノ統一舞臺デハ危クテナカク々々

自由ナ活動ハ出来ナイ、無クセバ國ノ左亡ニ墮スルカラ容易ニ危ニサラスコトが出来ナイ。例ヘバ地中海ナドデハ英國ノ海軍ハ頗ル歩ガ悪イ。イタリーハ金輪際沈マナイ航空母艦ガアル。各所ニ駐在スル島ガソレデアル。又潜水艦ガ百餘ツモアル。池ノ様ナ狭イ所デハ之ハ英海軍ニ取リ危険至極デアアル。

英國トシテハ今度ノ戦争ハナカ々々樂觀ヲ許サナイ、實ニ危ナイ戦争デアル。ソレナラバ、ドウシテイギリスハコノ戦争ヲ結メタカト云フト今日ノイギリスハデモクラシイト云フケレドモ寡頭政治デアルト云ハレル。議員ヲ結メ今日ノ英國政治ニハユダヤ系ノ人が多イ。ユダヤヲ排斥シタ、ヒトラーニ對スル反感ハ極メテ熾烈デアル。今度ノ英國ノ態度ハ多分ニ感情ニ支配サレテ居ル事ニ思エル。ヒトラー情サニ遮二無二戦争ム持ツテ行ツタ事ニモ思ハレル。ソレトドイツノ實力ヤソ聯ノ態度ニツイテノ誤算モアツタト思フ。今日トナツテハ、英國ハ日本アタリデ考ヘテ居ル様ニ何處迄モ戦争ヲヤルカト云フトサウテナイカモ知レヌ。

アノエチオピア以來ノ英國ノ外交ヲ見ルトイツ約  
 定スルカモ分ラヌト思フ。勿論ドイツヲ孤立セシ  
 メ得レバ、英國モ最後マデ戰ヒ抜クデアラウ。  
 一番大馬ナノハ、ロシアトドイツトノ關係デア  
 ルガ、獨ソノ關係ハ意外ニ緊密ニ結バレテ居ルト見  
 ナケレバナラヌ。ドイツガ日ソ關係ノ調節ヲ切望  
 シテ居ル點カラ見テモソ聯ニ對シテ安心ヲシテ居  
 ル。日本トソ聯ガ妥協シテソ聯ガソノ益力ヲヨ  
 ロツパノ舞臺ニ集中スル事ニナソテモ何事不守ガ  
 ナイトスレバ、ドイツハ餘程ソ聯ヲ信田シテ居ル  
 ト云ヘルデアラウ。ソ聯ヲシテ極東ニ安心ヲ得セ  
 シメタイイフノハ、恐ラクソ聯ノ力ヲヨーロッパ  
 パノ南ノ方ニ向ケヨウト云フドイツノ希望デハナ  
 イカト思フノデアル。バルカンデソ聯トイタリー  
 ノ利害ガ衝突スルト云フガ、ソ聯ガ、バルカン半  
 代リニ近東ニ進出スルコトニナレバ、バルカン半  
 島、獨ソ伊ノ間ニ今後容易ニ諒解ガ付ケラレルト  
 思フ。イタリーガソ聯攻撃ヲ頻ニヤルカラ、獨伊  
 ノ關係モ冷却シタノダロウト云フ者モアルガ、私  
 ハソウ考ヘナイ。獨伊ノ關係ハヒトラ、ムツソ  
 リーニ兩雄ノ關係デアツテ、英傑トイフモノハ、

洋ノ東西ヲ問ハズ一線デアラウ、サウ易ク附イタ  
リ離レタリスルモノデアアルマイ。シテ且レバソ  
聯及イタリイラドイツカラ引離スト云フ事ハ、英  
國備トシテモ容易ニハ出糞ヌト思フ。

我々ハヨロツバニ使シ日獨伊同盟ヲ作ルコトニ  
及バズナガラ勢刀シタノデアアルガ、同盟トイフコ  
トハ國家ノ運命ニ關スル重大問題デアアルカラ、微  
力ノ限ヲ盡シテ先万ノ情勢ヲ十分ニ調査、研究シ  
タノデアアル。ソノ結果、歐俄諸國ノ實力ヤ向背ニ  
ツイテ大體以上述べタ様ナ結論ニ達シタノデアアル。  
日本ガ同盟ニ加ハラズ、反對ニ獨ソノ接近ガ出來、  
ソシテ戰爭トナツタノデアアルカラ、私ガ歸ツテ來  
タ後ニ於テヨロツバノ情勢ハ多少變化シテ居ル  
デアラウ。

今後ノ推移ガ凡テ私ノ所述ベタ通りニナルトハ決  
シテ斷言シナイ。タダ今日ニ於テモ確カニ述べ得  
ルコトハ日本ガ東洋ニ於テヤツテ居ルコトト、ド  
イツ及ビイタリイガヨロツバニ於テ急サウトス  
ルコトハ、世界ノ新シイ秩序ヲ作ル歴史的ナ大使  
命ヲ持ツテ居ル事ニ於テ類似シテ居ル事云ラ望ム  
アル。



日本が差當り支那問題ニ就テ、國民ノ信念ニナツ  
テ居ル所ノ東亞新秩序建設ト云フ事ヲ一步モ挫ゲ  
ズシテ、大膽ニ遂行スルト云フコトハ、固テ、ド  
イツ、イタリーガヨーロッパニ於テ爲サウトシテハ  
居ル事ヲ大キナ意味テ助ケルコトニナル。  
從ツテ日本が國運其ノ他ノ關係スラ古イカト妥協  
スルト云フヤウナ事ガアツテハ、是ガドイツ、イ  
タリー等ノヨーロッパ新興國ニ及ボス精神的打撃  
ハ大キイモノデアルト思フ。又從ツテ彼等ノ決意  
モ鈍リハセヌカト考ヘルノデアル。先程述べ々通  
リ、獨ソ條約、總テ今回ノ戰爭ト云フモノガ日本  
ノ國際的地位ヲ目前、樂ニシテ來テ居ルト云フコ  
トハ事實デアル。併シナガラ此ノ目前ノ樂ナ地位  
ヲ利用シテ、日本ガ獨伊ニモ偏セズ、英米トモ結  
バズ、所謂自主獨往テ支那問題サヘ處理スレバ宜イ  
イノデアルトイフ考ヘ万ハ、實際彼等ガ永久ニ戰  
争スルナラバ、ソレデ宜イガ、併シナガラ終局ノ  
ナイ戰爭ト云フモノハナイ。戰爭ニハ必ず機和ガ  
アル。ソノ機和會議ニハ必ず日本モ参加ヲ要求サ  
レル。然ル場合ニハ、日本ガ自主獨往、ドテラニ

モ偽シナイト云フコトハ即チ會議ノ席上テ孤立無  
 援トイフコトデアル。日本トシテハ、白人ガ全部  
 結束シテ東洋ノ鐵柱ニ於テ彼等自身ノ問題ヲ解決  
 シヨウトスルコトヲ最モ警戒シナケレバナラナイ。  
 彼等ガ一朝ニシテ目覚メ、ヨーロッパバデ互ニ喧嘩  
 シテ見タ所デ仕様ガナイ。ドチラガ降ツタ所デド  
 ウセヨーロッパバデハ物ガ足ラヌ。幸ヒ東洋ニハマ  
 ダ澤山物ガアル。人間ガ無刀デアル。日本ハマダ  
 辛ウジテ羽ガ生ヘタ許リダ、日本ノ力ノ充實シナ  
 イ内ニ今マデ英國ガ繩張りヲシテ他國ヲ近ケズ自  
 ラモ充分利用シナカツタ東洋ヲ一語ニ開發シヨウ  
 デハナイカト云フコトニナツタナラバ、日本ハ實  
 ニ甲斐ナキ事ニ當面シナケレバナラヌ。我々が遠  
 イ獨伊ト同盟ヲ結ベト主張シタノハ茲ニ考慮ヲ置  
 イテ居タカラデアル。  
 是ガ日本ノ外交ノ根本政策デナケレバナラヌト思  
 フ。實際ニハ我々ノ先聲モサウ云フ政策ヲ取ツテ  
 來テキルノデアル。國民モ政府モ自覺シテ居ラナ  
 カツタカモ知ラヌケレドモ、例ヘバ彼ノ日英同盟  
 ノ如キモノノ真ハレデ、要スルニ白人ノ世界ヲ二

ツニ分ツテ、其ノ一ツト活ンデ來タノデアアル。彼等ヲ一掃ニサセルト言フ事ハナイ。自主獨往トイフ事ハ日本ノ力ガ充分ニ出來タ上ノコトデアアル。今日ノ日本トシテハ何レニ係ハリ合ハヌト言フ事ハ一見最も安全ナ事ガ如クシテ、實ハ最も危険ナ政策デアアル。

白人ノ國際會議ニ於テ日本ハ曾テ單獨デ成功シタ事ハナイ。主張ノ通ツタノハ大抵與國ヲ持ツタ時デアアル。目前ノ支那問題ニシタ所デ、之ヲ單ニ支那問題トシテ切り離シテ解決ノ出來ルモノデハナイト思フ。外部ノ状況ガ日本ニ有利ニ展開シナケレバ、決シテ満足ナ解決ハ得ラレナイ。外部ノ情勢ガ定マラナケレバ、日本ト支那ト何ヲ決メテモ本當ニ決マツタト云ヘナイノデアアル。必ズ引續返サレル。我々ノ先輩ガ常ニ吾杯ヲ嘗メテ來タコトデアアル。日清日露ノ戰爭デモサウデアアル。此ノ際ノ世界會議デモサウデアアル。一時ニケラレタニノヲ取返サレテ居ル。今度ノ支那問題モ決シテ油斷ヲ許サヌノデアアル。今迄ノヤウナ政策ヲ執ツテ居ルト又憂キ目ヲ見ルト思フ。ソウデナケレバ結構デアアルガ、是ハ決シテ私ノ取越苦勞デハナイト思フ。

IV 大戦ノ歸趨

(昭和十五年六月「ダイヤモンド」誌)

大戦ノ歸趨

白蘭侵入ノドイツ軍ハ、破竹ノ勢ヲ以ツテ聯合軍ヲ擊破シ、既ニ英佛海峡ニ進出シタト言ハレル。惟フニ、ベルギー戦線ニ於ケル百萬ニ及ブ聯合軍ハ、激波ヲ免レヌデアラウシ、大勢既ニ決シツ、アルトモ見ラレル。

併シナガラ、ベルギーヲ席捲シテ、ドーヴァ海峡ヲ盪ツタドイツ軍ガ、ソノマ、英本土攻撃ニ移ルデアラウカ。フランスノ大軍ヲ未戻分ノマ、ドーヴァヲ渡ルトイフ冒險ハ、ドイツトシテモ考ヘリト力ヲ合せ、先ヅフランスノ征服ヲ企テハスマイカ。今日迄ノ實績ニ徴スレバ、コノ目的達成モ大ナル困難ハナイモノト見ナケレバナラヌ。斯クシテノルウエーカラオランダ、ベルギー、フランスト遂次ヨーロッパノ歐陸國ヲ克服シ、イタリト共ニ大陸ブロックラ完成シタル上テ、徐ロニ英國ニ向ツテ最後ノ止メヲ刺サントスルノデハアルマイカ。

軍事顧問家ナラヌ我々トシテハ、陸軍ヲ以ツテ

Doc 1616

64.

Doc 1616

スル英國ノ征服ガ果シテ可能デアルカドウカハ斷  
言出來ナイケレドモ、一衣帶水ノ彼岸ニ在ル英國  
ニ對シテ、絶對優勢ヲ誇ルドイツ空軍ガ、絶大ノ  
打撃ヲ加ヘルデアラウコトハ、絶對ニ難クナイ。  
而シテイギリスノ海軍モ、此ノ本國ノ急ヲ他所ニ、  
マサカイイスラントニ窒息シテ居ル譯ニモサルマ  
イカラ、コ、ハ國ガ乘ルカソルカノ瀬戸際テ、如  
何ナル危険ヲ冒シテモ、獨逸軍ニ對抗シナケレバ  
ナルマイ。サウナルト、コレマデノ經驗ニ依リテ  
モ、イギリスノ海軍ハ絶對ニ損耗ヲ蒙ツテ、著シ  
ク弱勢トナルデアラウ。マダ、イタリーノ海軍ト  
共ニ、イタリーノ空軍及ビ潜水艦モ英國攻取ニ加  
ハリ得ルノデアルカラ、結局ニ於テイギリスガ海  
上ノ戰爭ニ於テモ破レル可能性ガ濃厚ニナツテ奈  
ダトモ言ヒ得ル。何レニセヨ、英佛側ガ獨伊ヲ克  
服スルトイフ望ミハ、全ク失ハレタト言ハナケレ  
バナラヌ。

65.  
ソコテ同題トナルノハ、コノ敗勢ヲ見テ、イギ  
リスガ急遽ドイツニ對シテ講和ヲ申込ムカ、マダ、  
獨伊ガ之ヲ受諾スルカドウカトイフコトデアル。  
我々ハ戰爭ノ初期ニ於テ、ヒットラー總統ガ英佛  
ニ對シテハ戰爭目的ハナイト得シ、平和ノ提議ヲ  
シタノヲ以ツテ、ドイツノ眞意ナリト見ルコトハ

必ズシモ正シクハナイ。寧ろ平和ヲ提議スルコト  
 ニ依ツテ、戦争ノ責任ヲ英國側ニ負ハセントスル  
 政略デアルトモ見ラレ、イギリスハ謂ハバソノ術  
 中ニ陥リツ、アルモノデアルトイフ大膽ナ意見ヲ  
 述ベテ、一部カラハ素朴ナル外交論トシテ冷評サ  
 レタ。併シナガラ、ヒットラー、ムツソリーニ兩  
 雄ガ、獨伊ノ樞軸ヲ形腐シテヨーロッパノ再建ニ  
 乗出シタ以上、少シバカリ失地ヲ回復シタトカ、  
 領土ヲ擴張ゲタトイフ位ノコトデ、甘ンズベキ管ガ  
 ナイト、我々ハ福音シタノデアアル。  
 ヒットラーハ遠征軍隊ニ試シテ、「今後一千年  
 ニ亘ルドイツ民族ノ運命ヲ決定スベキ、戦争ガ始  
 マツタ」ト言ツテ居ル。又、ムツソリーニノ代辯  
 者モ「今後三百年間ノヨーロッパノ運命ヲ決スベ  
 キ秋ガ來タ」ト言ツテ居ルノデアアル。コレヲ以ツ  
 テ見テモ、獨伊兩國ハ何ヲ考ヘテ居ルカトイフコ  
 トハ、想像ニ餘リアル。  
 コノ戦争ノ結果トシテ、ヨーロッパニ於テハ、  
 冷酷ナル、寧ろ凄慘ナル大清算ガ遂ゲラレルノテ  
 ハナイダラウカ。今ヤ問題ハ、過去幾世紀ニ亘ツ  
 テ我が世ノ春ヲ謳歌シテ來タ英佛ガ、今後果シテ  
 大國トシテノ存在ヲ許ルサレルカドウカトイフコ  
 トデアアル。又、ヨーロッパノ小國ガ、今後モ絶對

主權ヲ握シテ六國ノ進路ヲ阻ムトイフ、不台國ノ  
ル從來ノ專權ガ繼續シ得ルカドウカトイフコトデ  
アルト云フ。

ヨーロッパニ於テ紋上ノ如キ大變革ガ遂ゲラレ  
ルトスレバ、アジアニ於テモ當然大ナル影響ヲ  
與ラザルヲ得ナイ。英佛ノ植民地、オランダノ植  
民地ハ如何ニ處分サレルカ。コレハ日本カラ見テ  
モ、重大ナル意義ヲ持ツ問題ダ。英德ヲ對フル重  
滿亞同盟ノ運命ハ今正ニ一大轉機ニ際會シテキル。

日本ノ西前ニ於テ、日本ノ發言ヲ俟々ズシテ、コ  
ノ大問題ガ決セラレテヨイモノデアラウカ。東亞  
ノ新秩序トハ如何ナル意義ヲ内包スルカ、マダ内  
包スベキモノカ、コノ際國民ハ改メテコノ點ヲ深  
ク省察スベキデアル。

第二次ヨーロッパ戰爭勃發以來、日本ハ不介入  
政策ヲ標榜シ、専ラ交鄰事變ノ解決ニ道進スルト  
言ツテ來タノデアルガ、コレハ根本ニ於テ世界史  
ノ動向ヲ誤ミ誤ツタモノノ見方デアツテ、ヨーロ  
ッパノ戰爭ガ新舊兩原理ノ戰デアル以上、アジア  
ニ於テ舊秩序ヲ打破シ新秩序ヲ作ラントスル大事  
業ニ乘出シタ日本トシテ、ヨーロッパ戰爭ノ海外  
ニ立チ得ルト考ヘタノガ、大イナル誤リデアルト  
言ハナケレバナラス。名ハ何ト言ハウトモ、實際

ニ於テ日ハヨロツバ戦争ニ捲込マレテ居ツタ  
ノデアアル。更ニ突詰メテ言ヘバ、ヨロツバ戦争  
ノ口火ハ、先ヅ支那事變ニ依ツテ切ラレタト言フ  
モ通言デハナイノデアアル。

何トアレバ、東亞ノ戦争ハ、ソノ目標ヲ一ツニ  
シテキルカラデアアル。東亞新秩序ヲ固ム力モ、獨  
伊ノ敵モ、同シク世界ニ於ケル舊秩序ヲ力デハナ  
イカ。我々ガ、日。獨。伊同盟ヲ提唱シタノモ、  
ソノ提議カラ出發シタノデアリ、又、同盟ガ成ラ  
ナカツタニモ拘ハラズ、條約ノ同意ヲ別トシテ、  
日。獨。伊ハ離ルベカラザル關係ニアルト主張ス  
ルノモ、ソノ意味デアアル。ソノタメニコソヨロ  
ツバ戦争ヲ西岸ノ火災視シテハイケナイ。日ハ  
ドイツヲ敗ケサセテハイケナイ、トイフコトヲ我  
々ハ絶叫シテ來タノデアアル。日獨伊ノ不可分關係  
ハ歴史ノ必然デアツテ、國內一部階層ノ勢力ニ誤  
ラレ、外見上、日ハ我等口獨伊ニ背キ英米ニ傾キ  
タルガ如キ態ヒアリタリトスルモ、世界政局ノ動  
キハ、コレニ依ツテ變カモソノ進路ヲ變ヘルコト  
ハ出來ナイノデアアル。ドイツガ今日頗ル有利ナル  
立場ニ於テコノ戦争ヲ遂行シツ、アルコトニ對シ  
テハ、日ハ、國內ニ於ケル舊秩序勢力ノ意見如  
何ニ拘ラズ、大イナル貢獻ヲ爲シテ居ルノデアアル。



獨ソ條約ガコノ戰争ノ快クベカラザル要件デアツ  
 タコトハ、何人モ疑ハヌ所デアルガ、ソコヲシテ  
 宿敵ドイツトアレホド容易ニ手ヲ遣ラシムモノハ、  
 日。獨。伊。葡。ノ存在デアリ、三國同盟ノ進歩  
 ガ主ナル原因デアル。又、アメリカガ戰前ノ豫想  
 ヲ裏切ツテ、コノ八月間中立ヲ守ツテ來タノモ、  
 同ジク、支那事變ニ關聯シタ日本ノ啞ミ合ヒガ、  
 米國ヲシテ以洲戰争ニ參加スルヲ得ザラシメタガ  
 爲メデアルコトモ、否ムコトハ出テ来ナイ。シテミ  
 レバ、ロニ不介入ト言ハウトモ、事實ニ於テハ日  
 本ガヨーロッパ戰争ニ於テ大ナル役割ヲ演ジテ來  
 タノデアリ、ドイツトシテハ、日本ニ負フ風頗ル  
 多イト言ハナケレバナナイ。

然ルニ、政變ハ寧ロ英米ニ傾カントシ、ドイツ  
 ノ白蘭侵入ガ今少シ迫レタナラバ、日本トシテハ  
 イギリスアタリト返シノツカス關係ヲ結ブベキ  
 情勢ニアツタノデアル。コレテハドイツトシテ、  
 日本ニ感誦ヲ捧ゲタクモ得ナイテハナイカ。  
 大キナサービスヲシテ居リナガラ、却ツテ恨ミヲ  
 買フトイフ、誠ニ割ノ惡イ立場ニ日本ヲ持ツテ來  
 タノハ何人デアルカ。

世界政局ニ於ケル新秩序身力ノ勝利ハ、嫌デモ  
 應テモ、日本ニ於ケル舊秩序身力ノ總退却ヲ誘

欲スルデアラウ。日本ノ自主主義、資本主義ハ、  
 必然ニソノ没落ヲ早メラレルノ他ハナイ。サナギ  
 ダニ三年間ノ支那事變ニ依ツテ、コノ情勢ハ必至  
 ト見ラレタノデアルガ、ソノ倒レントスル舊秩序  
 ヲ辛ウジテ支ヘテ來タモノハ、外部ニ於ケル舊秩  
 序勢力トノ聯同デアツタ。國民ノ大多數ハ、支那  
 事變ノ背後ニテモクラシーノ勢力ガアルトイフ事  
 ヲ確信シテ居ルノデアルガ、國內舊勢力ハソノ激  
 進外刀ト妥協苟合セントシ、外刀ノ支援ト策謀ニ  
 依ツテ支ハラレ、辛ウジテ命脈ヲ保ツテ來タト言  
 ハナケレバナライ。第二次ヨーロッパ戦争ノ結  
 果、今ヤコノ支柱ハ取去ラレントシツ、アルノデ  
 アル。コノ意味カラシテモ、西歐戰線最近ノ進展  
 ハ、日本ニトツテ頗ル重大ナル結果ヲ齎シタト言  
 ハナケレバナライ。

内外ノ問題ヲ新クノ如ク諒解スルテラバ、日本  
 ノ外交大策ヲ今後如何ナル方向ニ導クベキカハ、  
 一見明瞭デアリ、而シテソノ前提條件トシテ、何  
 ヨリモ先ヅ國內舊制ノ整理シガ要求サレル。

V 歐洲新秩序ト日本政治

出席者  
 白鳥敏夫 日本駐米大使  
 村重巨 日本駐米公使  
 小林五郎 日本駐米公使  
 小島 日本駐米公使  
 小島 日本駐米公使

(昭和五年七月)

一日本ノ無言ノ國論會談

小林 今日ハ、國際問題ニ關スル御意見ヲ一ツ總  
説ヒニ伺ヒタイト思ツテ参リマシタ。

白鳥 自分ハ今迄日本外交ノ革新ノ爲メ微力ヲ盡  
シテ來タガ、世界ノ情勢ハ、從來私等ノ唱ヘテ來  
タコトガ大體事實トナツテ來タ。併シ斯ウ云フ風  
ニヨロツバノ情勢ガ急激ニ變ツテ來ルト、タマ  
先見ノ明ヲ誇ツテナドキラレナイ。第一考ヘナケ  
レバナラヌコトハ、大勝利ヲ得タドイツヤイタリ  
一ニ心境ノ變化ガ起ツテ來ハシナイカトイフコト  
ダ。之ハ或程度已ムヲ得ナイコトダラウ。此ノ戰  
争モ山ガ見エテ來タシ、日本ト云フモノ、彼等ヲ  
助ケ得ル限度ガ非信ニ限ラレテシマツタ今トナツ  
テハ、懐ニ手後レト云フ願ガ深イ。

小林 スツト言ツテ居ラレタ通りニナツテシマツ  
タノデスガ、今後ハドウナリマスカ。

白鳥 私ハ人ニ同ツテイツモ、戦争ハ必ズ我々ノ  
豫想通りニナリ、「ソレ見タコトカ」トイフコト  
ニナルガ、ソレテハ既に手後レニナリ、日本ハ窮  
境ニ立ツト言ツテ來タノデス。ダガ併シ未ダ私ハ  
全然悲觀ハシナイ。ト云フノハ根本ニ於テドイツ、  
イタリト日本トハ今後ノ世界ニ於テモソノ立場  
ハ一致シテ居ル。一昔日本ノ爲政者ガ世界歴史ノ

必然ノ行手ヲ見誤ツタト云フコトノ爲ニ、今日マ  
 テ少シ日本ガ軌道ヲ外レテ居ツタ憶ガアルガ、何  
 ト云ツテモ支那事變以來日本ノ進ンテ來々道ハ是  
 ハ少數ノ人デドウスルコトモ出來ナイ。必ズ進ム  
 ベキ道ニ進マナケレバナラヌ。ソノ進ヲ日本ガ進  
 ム限リ、國家トシテハ、ドイツ、イタリーノ行キ  
 方トドウシテモ合流スルコトニナル。例ヘバ、  
 同盟ガ出來ナカツタカラシテ日本ハ獨伊トハ無  
 才互助ケ合フ發達合ハナイ譯デアル。現ニ政府ハ  
 不介入ト言ツテ來々、ニモ拘ラズ日本ガヤツテ居  
 ルコトハ非信ニ獨伊ノ助ケニナツテ來テ居ル。  
 日獨伊同盟ニ依ツテ彼等ハ何ツ日本ニ求メタカ  
 ト云ハバ、尋ラ英佛ノ東洋ニ於ケル立場ヲ弱メル  
 コト、ソレカラ、アメリカヲ牽制スルコトニヤツタ  
 ノデアツテ、日本ハ顧マレモセヌケレドモ事實上  
 ニハソレヲヤツテ來々。アメリカガ今ニナツテカ  
 ラ、 戰シタクモ出來ナイ。此ノ九月廿日彼等ハ日  
 本ニ準備サレテヨーロッパヲ歸却シテ來々。外交  
 テハドイツノ惡口ヲ言ヒ、物價的ニモ多少英佛ヲ  
 助ケテ來々ガ、雷刀ハ太平洋ニ集中シテ居ル。是  
 ハドイツニ取ツテハ非信ニ六キテ援助デアル。戰  
 前一般ニハ今度ノ戰爭ニハアメリカハ初カラ、 戰  
 スルダラウト言ツテ居ツタガ、若シソノ進リテ、

ツタラ、今マデニアメリカカラ随分飛行機ナドハ  
 澤山英佛ニ供給サレタラウ。海軍力ハイギリスハ  
 非信ニ優勢ダガ、ドウモ未ダ足りナイヤウダ。之  
 ニアメリカノ海軍ガ比力スレバ英佛同ニ非信ニ有  
 利ニナツテ来々ノデアラウ。第一精神的ニモ非信  
 ニ英佛ニ優越トナツタラウ。イタリーヤタリハー  
 寸起テナカツタラウ。アメリカノ海軍ガ地中海ニ  
 於テ英佛ト共ニ行動スレバイタリートシテハ動キ  
 ガ取レナイ。

サウ云フフウニ見レバ、情勢ハ可成リ今ト違ッ  
 タモノニナツタラウ。一ツニハアメリカガドイツ  
 ノ力ヲ非信ニ過小ニ評價シテ居ツタ所モヤル。英  
 佛ニ優シテ置ケバヨーロッパハ大丈夫ダト思ツテ  
 居ツタ。自分ハ日本ヲ専ラ抑ヘルコトニ使命ガヤ  
 ルト願ジテ今日雷刀ヲ太平洋ニ集中シテ居ル。日  
 本カラ見レバ迷惑至極ダガ、ドイツカラ見レバ非  
 信ニ有難イ。日本ハドイツノ爲ニエライ後制ヲ演  
 ジタコトニナル。然ルニ日本ノ爲政者ハ此ノアメ  
 リカノ雷刀ノ太平洋ニ於ケル集中ト云フ事實ニ非  
 信ニ苦痛ヲ感ジ、ドウカシテ此ノ關係ヲ好クシナ  
 ケレバナラス。経済的ニモ了解ヲ達ゲヨウト、ド  
 イツノ意思スル所トハ違ナ行キ方ヲヤツテ来々。  
 従ツテドイツハ何等日本ニ敵意スベキ理由ガナク  
 ナツタガ、事實ニ於テハイタリーニモ劣ラヌ大キ  
 ナサービスタ日本ハシテ居ツタノデアル。

## 二、歐洲新秩序ト米國ノ對立

是ヲ以テシテモワカルヤウニ、日獨伊ト言フモノノ立場ガ東西ノ新秩序ヲ目指スト言フ使命ヲ持ツテ居ル點カラ見テ、バラバラニヤツテ居ルコトガ同ジ目的ニ集中サレテ居ル、別々ニヤルコトガ互ニ援ケ合フ結果トナル。三國ハ斯フ言フ基本關係ニ私ハアルト思フ。其ノ立場カラ見レバ今後ト雖モ矢張り日獨伊ハ當然力ヲ合セテ行ケルト思ハレルシ、假ニ下イツルガ英佛ノ勢力ヲ「ヨーロッパ」カラ驅逐シテシマフトシテモ、其ノ瞬間ニ直チニ「ヨーロッパ」ノ新秩序ガ出來ルト言フ譯デハナイ。「ヨーロッパ」ノ舊秩序のモノハ悉ク米大陸ニ集マルダロウ。舊秩序ノ最モ代表的ナモノハ金塊デアルガ、是ガ今日既ニ逸早ク「アメリカ」ニ集ツテキル。無論新秩序ノ一番ノ敵デアル所「ユダヤ」人ハ前以テ「アメリカ」ニ移ル姿勢ヲ執ツテ居ルシ、英佛ノ没落支配階級ト言フモノハ全部「アメリカ」ニ行クデアラヒ是等ノモノハ從來ノ個人主義的、自由主義的ノ人生觀カラ到底全體主義支配下ノ「ヨーロッパ」ニ留マリ得ナイ。今後群ヲナシテ往年ノ「ビュータン」ノ連中ノヤウニ「アメリカ」ヘ移ルダロウ。

ソウナルト結局世界ノ有ラユル古イモノガ「アメリカ」ニ集マル。從來新世界ト言ハレタ「アメリカ」

ガ舊世界ニナツテ、舊世界ノ「ヨーロッパ」ガ新  
 世界ニナルト言フコトニナツテ、而シテコノ對立  
 情勢ガ相當期間續クダロウ。「アメリカ」ノ古イ  
 モノガ結局ニ於テ清算サレル迄ハ此ノ葛藤ガ續ク  
 一方日本ノ國內體制ガ新シイ秩序ニ驟然改マツテ  
 而シテ東亞ノ新秩序ニ向ツテ邁進スルコトニナル  
 ト、是ハ自然「ヨーロッパ」ノ新秩序トノ合作提  
 携ハ不可避トナリ、一面太平洋ニ於テハ「アメリ  
 カ」ノ舊世界ト對立スルコトニナル。其ノ大筋カ  
 ラ見レバ矢張り日獨伊ノ提携、互助連關ノ關係ハ  
 續クモノト見テ宜イ。

### 三、英佛米合體勢力ト極東

野村 大體今御話ノヤウニ世界ノ古イモノガ總テ  
 「アメリカ」ニ集マルダロウト言フコトハ面白イ  
 見方ダト思ヒマス。今度ノ戦争ガ熾マツタ時カラ  
 英佛ノ既成勢力ヲ以テシテ、新興獨伊ノ樞軸ヲ抑  
 へ付ケルト言フコトハ出來サウニモ考ヘラレマセ  
 ンデシタ。

ソレダノニ英佛ノ支配階級自身ハ非常ニ獨伊ニ對  
 シテ固イ抗戰意識ヲ持ツテ居ル。コノ點カラ考ヘ  
 テ私ハ、コレハ英佛ノ支配階級タル「ユダヤ」勢  
 力が英佛ノ國家ヲ犠牲ニシテ、サウシテ反「ユダ  
 ヤ」ノ勢力即チ獨伊ニ少シデモ打撃ヲ與ヘルト言

フコトダケヲ目的ニシテ、勝味ノナイ戦争ヲ挑發シタノデハナカラウカト言ツタヤウナ感じガシタノデアリマス。

トコロガ、ソノ後ノ經過ヲ見マスルニ、ドワヤラソウ言フ風ナ方向ヘ行クヤウニ思ハレマス。例ヘバ英佛ノ資本ハ「アメリカ」ニ流レル。政府モ米洲ニ逃避スルノデハナカラウカ。ソノ他「ユダヤ」人ノ自由主義者モ行クダラウ。サウナツタ場合ニ世界ハドワナルカ。「ヨーロッパ」ニ興ツタ新シイ勢力ト「アメリカ」ヲ中心ニシタ古イ勢力トガ相営期間ニ互ツテ抗争スルダラウ。ソノ争フ舞臺ハ今度ハ東亞ト言フコトニナル。是ハモウ何トシテモ「イギリス」ヤ「フランス」トシテハ東洋ニ於ケル帝國主義的ナ植民地支配ヲ維持シテ行カナケレバナラヌダラウシ、ソレカラ英佛ヲ迎ヘテ「ノキバ」ヲ貸ス「アメリカ」モ亦英米ノ植民地支配ニ無關心デハアリ得ナイト言フコトニナルソコデ結局「イギリス」ノ艦隊、「フランス」ノ艦隊ノ損傷ヲ免レタモノハ總ベテ太平洋ニ集マツテ來ル。「アメリカ」ノ方モ「ヨーロッパ」ヲ救援スルコトガ無駄ト言フコトニナレバ全力ヲ太平洋ニ集中シテ、濠洲ナリ佛印ナリ、或ハ英印ナリヲ守ツテ行ク。而シテ支那ヲ侵略シテ行カウ。斯ウ言フ風ニ出テ來ルニ違ヒナイ。



結局「ヨーロッパ」ノ獨伊ソノ勢力トコロ英佛ト合體シタ米ノ力が極東ニ於テ衝突スルト言フス様ナ情勢ニナツテ來ルノデ、極東ハ結局近代ノ「ブルカント」ト同ジヤウナ立場ニ立タサレル。サウナツタ場合ニ日本ノ滿洲事變、支那事變以來ヤツテ居ルコト、即チ東亞新秩序ノ建設ガ「アメリカ」ノ「スチムソン」原則ニ反スルト言ツタ譯デ、今日ハ強面ヲ以テ日本ヲ抑ヘテキル「アメリカ」モ愈々トナツタ場合ニハ、情勢次第デドンナ風ニソノ極東政策ヲ轉換シテ來ナイトモ限ラナイ。言ヒ換ヘタラ日本ヲ日英同盟當時ノ番犬ノ立場ニ歸ラセ、「ボイランド」トカ「ブチ・アンドン」ト見タイナ、極東ニ於ケル民主主義國ノ前衛部隊ニ利用シテ行カウト言ツタ政策ニ變ツテ來ナイモノデモナカラウ。サウナツタ場合、日本ノ指導階級ハ目先ノ安易サニ引摺ラレテ、ツイソナ氣ニナル危険性が特ニアル様ニ思ハレル。結局支那事變以來日本ノヤツテ居ルコトヲ、形式ノ上デハ是認スルト言ツタヤウナ形デ、表面「アメリカ」ガソノ政策ヲ變更スル。ソレニ應ジテ日本モ「アメリカ」ニ對スル見方ヲ變ヘテ、「アメリカ」ト提携スル實ハソノ手先ニナルト言フ様ナ政策ガ執ラレル危険性ガアル。サウナルト今ノトコロハ事實上ノ「ヨーロッパ」ニ於ケル行動ト日本ノ東亞ニ於ケル行

動トハソノ本質的ニ於テハ同ジク世界ノ新秩序建設ニ向ツテキルノダガ、ソノ瞬間カラ兩者ハ矛盾シテ、日本ハ舊秩序ノ維持ノ味方スルト言フ虞レガアルヤウニ考ヘマス。

#### 四、敗戦後ノ英國ト米國ノ危機

白鳥 ソレハ今ノ日本政治支配階級ガ今後モ日本ノ政治ヲ擔當シテ行クト言フコトニナルト、今貴方ノ言ハレタヤウナコトニナルカモ知レナイ。現ニ「アメリカ」アタリハ相當日本ニ對シテ緩和的ノ態度ヲ執ツテ來テ居ル。殊ニ日本ノ支配階級ハ「アメリカ」ノ物資ガ自由ニ入ルコト、進ンデ或ハ「クレデット」デモ呉レルトカイフコトヲ熱望シ、新通商條約ヲ結バウトシテキル。過去一切ヲ顧ミズニ之ト手ヲ握ラウトスル傾向ガアルガ、是ハ今日ノ國民ノ大多數ノ感情カラ言ツテモ許サルベキコトヂヤナイ。今日本ガ「アジア」大陸ニ於テ負ハサレタ使命、今後「アジア」ノ廣イ範圍ニ於テ日本ガ成シ遂ゲナケレバナラヌ役割ニ背イテ今ノヤウナ歴史ニ逆行シ、人類文化ノ運行ヲ堰キ止メ自己ノ發展ヲ阻止スルヤウナ方向ヲ辿ラウトハ私ハ夢ニモ思ハレナイ。其ノ點ハ左迄悲觀ノ要ハナイト思フガ、貴方ノ言ハレタ通り、今後「ヨーロッパ」ヲ追ハレタ英佛ガ「アメリカ」ト一緒

ニナツテ、必テヨーロッパデ失ツタ所ヲアジアニ  
 於テ補ハウ。從來彼等ハ此張ハシニ居ツタガ能ク  
 開闢利用モシナカツタ印トカ印トカ英領印度  
 トカガ彼等ニ攻ツテ益々大基ナモノニナツテ來ル  
 コトハ、タシカデアル。従ツテ此處ニ勢力ヲ集中  
 スルダラウト云フ危險ハ多分ニアル。  
 併シイギリスニシロ、フランスニシロドイツノ武  
 カニ存ツテヨーロッパカラ遠サレタトシテ是ガ  
 泣痕入ニナリ、ヨーロッパヘノ復歸ヲ企スル迄  
 ニハナガ々々彼ガ思ラウト馬フ。又此際彼等ガ  
 全境ト實テト商船ヲ持ツテ、アメリカヘ引揚ゲタ  
 ト云ツテモ、英本國ニハ二千三百萬ノ英下人民ガ  
 居ル。フランスモ四千萬ノ人民ガ居ル。是ハドウ  
 モ強シレテ存クニハ行カヌ矣。然リ然レテ亦カレ  
 ルダラウ。彼等ハ英本國ニ存ツテ居ル四千萬ノ英  
 ノ人民ヲ誰ガ養フカ。食フ糧ハ此處ニ分シカナ  
 イ。之ヲヒツトラガ、ヨーロッパ大陸ノ此等テ  
 養フ能ハナイ。又此等シナフ至モ出テナイ。是ハ  
 ドウシテモ米大陸ニ存シナクバ生存ハ出來ナ

イ。少クトモ英本國ノ人間ハドウシテモ米大陸ニ  
 出ラナケレバナラヌ。之ヲ憐愍サツパリ目捨テテ  
 少數ノカナダへ移ツタ者ガ、アメリカト一語ニナ  
 ヲテ東洋ニ於テ殖民地ノ三層ヲヤルト云ツテモサ  
 シタルコトハ出衆ヌ。他ガ偏テモヨーロッパ  
 辰スト云フ運動ハ五三ヤ十年ハ可成リ熾烈ニ行ハ  
 レルダウ。其ノ間東洋ニ刀ヲ入レルコトガ出衆ナ  
 イテセウ。其ノ間ニハドイツヤイタリーノ海軍力  
 ハ急進ニ進ス。サウスルト今度ハ米大陸ガ受身ニ  
 ナツテ來ル。何ト云ツテモヨーロッパハ人財ガ  
 エテ居ルシ、ヨーロッパハ自給自足ノ地ニ出衆  
 ナイ。ドイツ、イタリーハ專ラアフリカノ開發ヲ  
 ヤルダロウ。併シソレニシテモ米大陸ヲ大西洋ノ  
 彼方ニ控ヘテ居ツテ、之ト交渉ヲ持タヌト云フ語  
 ニハ行カナイ。蓋當リ爾米デアルガ、是ハヨーロ  
 ヲパノ出店デアアル。人道的ニ言ヘバ、土人ノ外ハ  
 專ラスペイン人、ドイツ人、イタリ人デアアル。  
 アングロサクソンハホンノ少數デアアル。是ガアメ  
 リカニ對シテ好イ感ジヲ持ツテ居ナイ。  
 今迄ノ世界ハアングロサクソンガ絶對優勢デアツ

タノデ、真ニ壓サレテ厭々ナガラアメリカノ支配  
 ヲ受ケテ居ツタガ、今度ハ急激ニアングロサクソ  
 ンニ打勝ツ世界ガ出來ルト寧ロ彼等ハヨーロッパ  
 ニ心ヲ寄セル。アメリカトシテ非常ニ受身ニ立ツ。  
 モンロー主義ガ足元カラ崩レテ來ル。ナカ々々ア  
 メリカトシテモ容易ナラヌ輩ダ。自分自身ノタメ  
 ニハ有り餘ル豊富ナモノヲ持ツテ居ルシ、且ノ上  
 尙アジアニ物資上ノ誘惑ハソウ感ジナイ。ソレヨ  
 リモアメリカ刀自身ノ自衛上足元ノ兩米ニ既ニ火ガ  
 點クコトニナルト、是ハ由々シキ一大事デナウ。ウ  
 ウカシダカラシテアメリカダケナラバ今貴万ノ言  
 ハレタヤウニ東洋ニ益々刀ヲ入レテ來ルダラウト  
 云フコトハ一寸未ダ考ヘラレナイ。カナダハ一千  
 年ソコソコノ人間シカナイガ逐次英本土カラ落延  
 ビテ行く者ガ集マツテ來ル。カナダダケデハ六國  
 トシテノ勢ヲ維持スルニ足ラヌ方テ、落チノビ  
 タ英國カラ見ルト印度、澳洲、ニュージールランド  
 等ガ大聖ニナツテ來ルト思フガ、併シ英本土ヲ失  
 ツテカナダニ移ツタ英帝國ト云フモノガ果シテ今

後ソレ程ノ實力ヲ持チ得ルガドウカハ疑問デアル。  
 英帝國ヲ見ルト英本土ハ謂ハバ羣島所ノ所在地見  
 タイナモノダト云フ極端ナ見方ガアルガ、何ト言  
 ツテモアソコガ原動力デ、アソコデ、アソコカラ  
 大陸ヲ抑ヘテ居ツタ。ソレガヨーロッパニ足場ヲ  
 失ヒ、本土ヲ逃ゲタト云フ英帝國ノ保存勢力ハ我  
 タハ悉ルベキモノテナイト思フ。何レニシテモヨ  
 ーロッパノ新勢力トアメリカへ落延ビタ舊勢力ト  
 ノ葛藤ハ今後五年乃至十年ハ相當ニ激烈ニ戰ハレ  
 ル。其ノ間ハ少クトモ東洋方面ニハ大ナル壓迫ハ  
 出來ナイカモ知レナイ。此ノ五年乃至十年ノ期間  
 ハアジアノ民族ニ取ツテ非特ニ貴重ナ時間ダ。是  
 ヲ空費シテ居タラ色々ノ壓迫ヲ加ハツテ來ル事ハ  
 目ニ見エテ居ル。結局ニ於テヨーロッパモアジア  
 ニ依ラナケレバナラナイアジアノ力が欲シイ。米  
 大陸ニ依存シテ居ル英佛及美國自身モ結局ニ於テ  
 アジアアラ 舊勢力ニ合セヨウトスルダラウカ  
 ラシテ、其ノ間ニ日本ハ與ヘラレタル五年乃至十  
 年ノ餘餘期間ヲ最大限ニ活用スル必要ガアル。

83.

Dec 16/60

是ハ日本國民ニ對スル大キナ課題デナケレバナラ  
ヌ。日本國民ガ何トナク重大ナル轉機ニ臨ンデ居  
ルト云フ豫感ヲ持ツテ來タノハ、サウ云フ大キ  
ナ意味ニ就イテノ一種ノ直感デヤナイカト思フ。

(以下次頁へ移ク)

## 五、我國ニ於ケル親英派ノ立場

小林 サウ云フ意味カラ政界ト云ハズ、ソレカラ  
 學界、帝大ノ教授アタリモ一向分ツテ居ラナイデ  
 スネ。依然トシテ逆ナ見方デ初メハドイツハ戦争  
 ニ負ケルト云フ見方ガ大體ニ此ノ間迄横行シテ居  
 ツタガ、今度ハ戦争ニハドウヤラ勝チサウダ。現  
 實ニハ何トモ反駁出來ナイ。サウスルト今度ハ戦  
 争ニ勝ツテモ仕様ガナイ。武力ニ勝ツテモ仕様ガ  
 ナイト言ツテ居ル。文化ノ敵ダ。英佛側ノデモク  
 ラシーノ中ニ正義ガ依然トシテアルヤウナ云ヒカ  
 タラスル。實ニ病膏盲ニ入ツテキル。是ハ米大陸  
 ニ行ツテ眞ハナケレバナラヌ連中デスネ。日本カ  
 ラ。。。。。

白鳥 日本カラモ餘程行カナケレバナラヌ連中ガ  
 アル。

野村 御話ノ日本ガ歴史ノ進行ニ逆行スルコトハ  
 國民的感情ガ許サナイト云フ點ハ勿論デアリマス  
 ガ、然モ一部ニハ、今小林君ノ言ハレテ居ル歴史  
 ノ動行ヲ逆ニ見テ居ル連中ガアルカラ。。。。  
 白鳥 併シ、サウ云フ人達ガ何時迄モ日本ヲ支配  
 スルトハ考ヘラレナイ。又サウシチヤイケナイ。



小林 サウ思ヒ込ンデ居ルヤウデスネ。

白鳥 ソレハ何ント云ツテモ傳統トカ、悪ク云ヘバ辭見ト云ノモノハ、ナカナカ扱ケ難イモノデ、サウ云ノモノニ骨ノ髓迄侵潤サレテ居ル人タチダ。又サウ云フ世界ノ下ニ彼等ハ今日ノ地位ヲ保ツテ居ル。サウ云フ世界ガ變ルト云フコトハ、直チニ彼等ハ其ノ地位ヲ失フト云フコトニナル。サウナツテ來ルト是ハ「私」デス。親英派ト云フモノカ日本ニアル。ソノウチノ或人達ハイギリスガ滅ビテモ尙私ハ親英ハ已マヌト思フ。親英ト云フコトハ自分ニ親シムコトダ。自分ヲ可愛ガルコトダ。

小林 實業界ト云フモノハ大體サウデスネ。

白鳥 實業界ダケデヤナイ。從來サウ云フ風ニ頭ガ出來テ居ル。ソレヲ人ニ教ヘ、ソレヲ本ニ教イテ自分ノ地位ヲ保ツテ來タ人タチガアル。今迄ノ世界ガ引ツクリ返ツテ來ルト彼等トシテハ立場ヲ失フ。

小林 サウデス。ソレデ先生達ノ派カラハ私等ハ白鳥サンナドモ親獨派ト言ハレテ居ルガ、我々ノグループハ別ニ親獨派トハ思ツテ居ラン。

白鳥 ソレハコツチモ親英派トイフンダカラ向フ

モサウ云ノダラウ。

小林 先生達ニ言ハセルト、ドウモ親獨派ノ言フコトハ聞イテ居ツテハ大變面白イガ、ドウモ併ンサウ云ノモノチヤナイト言フ。

野村 文化ニ逆行スルト云フンダ。

小林 獨逸ガアソコ迄強イ源泉ハ結局新シイ文化ニアルシ、新シイ思想、新シイ世界觀ヲハツキリ持ツテキルトコロニアル。

野村 彼等ハ今ノ獨逸ニ新シイモノヲ見ナイデ、結局、中世ノ權力主義ヲ以テ律シヨウトスル。丁度ルネツサンスノ時代ニカトリック勸會ノ連中カギリシヤ、ローマノ文藝ニ憧レル新人達ヲ目シテ非常ナ異端ガ起ツタ、是ハ世界ガ今ヤ神ノ國ヘ向ツテ進ンデ行カウトシテ居ルノニ、ギリシヤアタリノ野蠻ナ神々ヲ祭ラウトスル不心得者ガ起ツテ來タト感ジタ。斯ウ云フノト同ジダト思フ。

小林 ダカラ時代ガ經タナイト分ラナイ。

白鳥 人類ノ歴史カラ見レバ、ルネツサンスハデモクラシーノ根元タルギリシヤ文化ヘノ復古デアルガ、ドイツヤイタリーノ新シイ世界觀ハギリシヤ以前ニ遡ル運動ダ。日本デモ維新ト云フコトハ

常ニ復古デアリ寧ロ神代ニ遡ル。ダカラ全體主義  
 ハ人類文化ノ歴史カラ見ルト根元的ナモノ、本質  
 的ナモノニ、再ビ歸ルト云フコトニナル。彼等カ  
 言フ文化ト云フノハ文化デナイ。形式的ノ<sup>シグニゼーション</sup>文  
 ト云フモノヲ言フノデセウ。色々ト人間ノ作ツタ  
 インステイチユーション、或ハ形式的ナ目ニ見エ  
 ル文明ダネ。ドイツ人ハシグイリザチヨントクル  
 ツールヲ區別シテ考ヘル。ドイツガ勝テバ地上カ  
 ラ影ヲ没スルト英米人ヤ日本人ノ云フノハ、コノ  
 形式的ジグイリゼーションデアラウ。カルチュア  
 ハ滅ビナイ、却ツテ盛ニナル。今日マデノ日本ガ  
 最モ尊イモノダト聞カサレテ來タモノハ、此ノ西  
 洋ノ自由主義文明デアル。

(以下次頁へ續ク)

## 六、ヨーロッパ文明ノ起源

野村 其ノ點ニ就テハ前ニ「國民評論」ニ一寸書イタコトカアリマスガ、近代ノヨーロッパ文明ハ普通ニヘレニズムカラ起ツタト言ハレル。所カヘレニズムト云フノハ是ハアリヤ人カギリシヤ半島ヘ入ツテ來テ、而シテ地中海ヘ出テ、地中海ノ海洋文明ニ觸レタ時代ニギリシヤ植民地ニ起ツタ新文明デアツテ、アリヤ人カラ言ハバ外來文化デアツタノダ。地中海文化ハドンナモノカト言ハバベルシヤ灣ノ海賊ガ地中海ヘ入ツテ來テハニヤ人ニナツテ拵ヘ上ゲタ所ノ一ツノ都會文明、其ノ元ハアラビヤノ沙漠ノキヤラパン文明ヂヤナイカ。カラバンハアラビヤノ不毛ノ地帯カラ時々メソポタミヤノ沃野ニ出テ來テ、ソコノ農民ヲ略奪シタリ誤魔化シタリシテ生活シテ居ツタ。コレ等ノ連中ガ後ニバビロニアト云フ商業帝國ヲ拵ヘ、又アツシリアト云フ軍國主義ヲ拵ヘタノダ。是等ノ連中ハドツチニシテモ自分ハ生産シナイデ、生産者タル農民達ヲ搾取シテ生活シタノデアアル。コ、ニ起ツタ宗教ガバビロニア、アツシリアノ一神教デ、ソレガユダヤ教ニ發展シキリスト教ニナツタ。コノユダヤ教、キリスト教ニ於イテ非常ニ面白イノハ、神ト人間トガ信仰ノ契約ヲヤツテ居ルコトデアアル。コノ對立的相對的ノ契約思想ガ今言ツタヘ

レニズムトヘブライズムトヲ通ジテヨーロッパヘ  
遺傳サレタ。近代ノ統治契約説、社會契約説カコ  
レダ。

斯ウ云ツタ社會ニ於テハ商業カ或ハ略奪カ。カ  
ウ云フ風ナニツノ形カ經濟ニハ現レテ來ル。ソレ  
カラ社會構成デハ御互ノモノカ對立シ合フト云フ  
所カラ勢力カ均衡シテ居ル場合ニハデモクラシー  
ノ形ヲ執ルシ、ソノ均衡カ破レテ誰カガ非常ニ強  
クナルト極端ナ專制主義ニナル。カウ云フコトカ  
ギリシヤニモローマニモ現レテ居ルシ、又國際社  
會ニシテモ武装平和見タイナ、或ハ國際聯盟見タ  
イナ不安定ナ國際主義、平和主義、ソウデナケレ  
バマケドニアヤローマ見タイナ侵略主義ト世界國  
家ノ思想、斯ウ云フヤウナモノニナツテ來ル。近  
代ヨーロッパハソレヲ全部混淆シタ代表的ナ對立  
主義ノ世界デアル。ソレハ經濟的ニハ結局資本主  
義ト言ハレルモノデアルケレドモ、ソレハ一種ノ  
洗練サレタ商業主義デアリ、ソノ商業主義カ國內  
ノ農村ヲドンドン喰ヒ潰シテシマツテカラ今度ハ  
印度トカ濠洲トカ云フ工合ニ海外農村ヲ喰ヒ潰ス。  
ソレデモ足ラナイカラ支那ヤ滿洲ヲ喰ヒ潰ソウト  
スル。コレカ所謂帝國主義デアル。イギリスノミ  
デナクコンナ帝國主義ノ國々ガアツチニモコツチ

ニモ出來ルカラ、植民地ノ問題ヲ繞ツテ互ニ對立  
 抗爭スル。ソレガ武裝平和ヲ保ツテキル間ハヨイ  
 ガ、結局ハ衝突シテ帝國主義戰爭ニナリ、世界文  
 配ヲオ互ニ爭フト云フヤウナコトニナル。コレガ  
 卽チヨーロッパ戰爭ノ本質ナデアル。

ソウ云ツタ人間ノ生き方、在リ方、或ハ文明ノ  
 形態ト云フモノハ沙漠地帯デアルトカ、海洋デア  
 ルトカ云フ、本來人間ノ生活ヲ勤勞ニ依ツテ維持  
 シテ行クノニ不適當ナ地方ニ出來タ變態デアアル。  
 コノ變態文明カ異常ナ發展ヲシタノガ近代世界デ、  
 ソレガ元ニ歸ラウトスルノカ西洋ノ没落デアアル。  
 光ハ東方ヨリデアアル。ナチハ或ル意味ニ於イテ東  
 洋ハノ復歸デアリ、農業文明ヘノ復古デアアル。例  
 ヘバナチノ國土計畫ヲ見テモ日本主義的ナ傾向ガ  
 アルジ、失張り土ニ着イタ人生ノ特質、性質ト云  
 フモノハ歸ツテ行カウトジテキルノデアアル。

#### 七、日本ノ生活圖トブロツク主義

白鳥 慥ニソウナラナケレバナラヌ。又ソウナル  
 ノガ今日ノ世界ノ轉換ダ。要スルニ七ツノ海ヲ越  
 エテ帝國ヲ造ルコトハ不自然デアアル。ドウシテモ  
 今後ノ世界ハ大キナ地域ニ分レルト思フ。ソレハ  
 大體陸續キニナラナケレバナラヌ。日本モ海洋國

トシテ考ヘナイデ、アシア大陸ト陸續キデアルト  
 考ヘナケレバナラヌ。日本ノ今マツテ居ル日滿支  
 ノブロックト云フモノハ濫ニ是ハ地圖ノ上デハ大  
 キナモノデアアル。併シ私ハ少シ範圍ガ狭イカ知ラ  
 ヌト思ツテ居ル。之ニ南洋地方ヲ加ハレバ、立  
 派ナ一ツノ生活圏ニナル。之ハ海洋帝國デハナイ、  
 立派ナ陸續キノ生活圏デ新シイ世界ノブロック主  
 義ノ形態ヲ備ヘテ居ルト思フ。サウ云フ風ナ點カ  
 ラアシア人ノ生活圏或ハブロック化ト云フモノヲ  
 考ヘナケレバナラヌト思フ。而シテ從來ノ商業主  
 義ト云フモノハ此ノ際綺麗ニ清算シナケレバナラ  
 ヌ。大地ニ足ヲ着ケタ原始産業的ナ活動ガ基調ト  
 ナルベキデヤナイカト思フ。ソレヲヤルト戰爭ト  
 云フモノ、誘惑ガ非常ニ少クナル。

此ノ意味デヒットラーガ此ノ間アメリカノ新聞  
 記者ニ與ヘタ會見談ハ大變面白イ。他ノ生活範圍  
 ヲ犯サナイカラ他モ自分ノ生活圏ニハ干涉スルナ  
 ト云フ。ソレニハ大體ニ於テ自給自足ノ出來ルダ  
 ケノモノヲ持タナケレバナラヌ。アメリカハモン  
 ロー主義ダト言フ。自分ノ方ニハ舊世界ガ侵入シ  
 テ來ルコトヲ欲シナイ譯デアアル。ソレニ止マツテ  
 居レバ宜イガ、世界ノ隅ノコトニ迄一々口ヲ出ス  
 ト云フノデハ、ソレハ筋ガ通ラヌト言ツテアメリ

カラタジナメテ居ル。

小林　　デスカラドウシテモ日本ノ政治ガ英米ニ追  
隨スルト云フカ、サウ云フ方向ヲ一遍清算シナケ  
レバ迎モ大キナコトハ出来マセンネ。今後大キナ  
國防國家計畫ト云フモノハ、サウ云フ方向ニ立ッ  
ベキモノデセウ。

白鳥　　イヤデモ其處へ行カナケレバナラヌ。急速  
ニ行カナケレバナラヌ。

#### 八、ドイツ民族ノ性格

野村　　唯思ヒマスノハ、現實ハサウデアアルニモ拘  
ラズ、ソレヲ逆ナ方ニ見ル人ガ非常ニ多イト云フ  
コトデス。ソレハ御話ノヤウニ利害關係カラソウ  
ナルノダト云フ方面ハ勿論アルト思ヒマスガ、ド  
ウモ失張リ今私共ノ頭ヲ支配シテ居ル從來ノ思想  
ナリ觀念ナリハミンナソナモノデアアル。モウ一  
ツニハ世界文明ガギリジャ、ローマニ始マツテ近  
代文明ガフランス、イギリステ完成サレタ。是ガ  
最高度ノモノデアルト云フノデ、ソツチノ方ハ兎  
ニ角行クノガ進歩ダト考ヘラレテキル。又マルク  
スニシテモ矢張り歴史ノ解釋ハ根本的ニハソレト  
異ナラナイ。凡ベテノ歴史ハコノヤウニヨロツ  
バ中心ノ考ヘ方ヲシテキル。然モ日本ハ東亞新秩



序ト云フコトヲ言ツテ居ルガ、新秩序ノヨツテ立  
 ツ歴史のナ基礎付ケカドシナモノカト云フ反省ハ  
 全然ナイ。是ハ歴史的問題ダケデナイ。哲學ノ  
 問題ニシテモ、政治、經濟、法律、社會、何デモ  
 古イ世界觀ガ其處ニ染ミ込ンテ居ル。ソウ云ツタ  
 世界觀デ物ヲ見ル限リ結局物ヲ曲ゲテ見テシマフ。  
 ドウシテモ矢張り新シイ文化運動ト云フモノガ必  
 要ナノデヤナイカ。

ドイツノナチニシテモ立派ニ新シイ世界觀ヲ持  
 ツテ居リマスガ、是ナシカモ忽然トシテ現レタモ  
 ノデナク、矢張りドイツノ民族國家ガ統一サレテ  
 カラドイツニ起ツタモノ、例ハバビスマルクノ文  
 化闘争、是ハ非常ニ政治的意味ヲ持ツテ居ツタガ、  
 此ノ文化闘争、或ハ哲學ニ就テ言ハバヘーゲリズ  
 ム、文學思想カラ言ハバローマンテイシズムノ遵  
 動、經濟學ノ歴史學派、ソレカラ法律學ノゲルマ  
 ニステン等、斯ウ云ツタ譯デナチノ世界觀ノ基ニ  
 ナルヤウナ相當廣範圍ノ新文化建設運動ト云フモ  
 ノハ十九世紀カラドイツニ起ツテ居ツタノデアリ  
 マス。ソレカ本當ニ勝利ヲ占メナカツタカラ前ノ  
 大戦ノ時ニハデモクラシーニ或ハリベラリズムニ  
 負ケテシマヒマシタ。乍併今度ハソレガナチノ天  
 下ニナツテ咲キソロツタ。否反對ニソシナ文化的

ノ基礎ガアツタカラナチノ天下ハ固マツタ。ソウ  
 思フノデス。  
 白鳥 ドイツ民族ノ性格ノ基調ハアングロサクソ  
 ンノトハ大變違フ。彼等ノ民族性ハ元々全體主義  
 的ノ傾向ガ非常ニ強イト思フ。同時ニ個性ノ尊重  
 ト云フコトモ、科學ニアレダケノ進歩ヲ遂ゲルノ  
 ダカラ無論半面ノ特長トシテ持ツテキルガ、基調  
 ラ成スモノハ全體主義ダ。ダカラアングロサクソ  
 ンノ議會政治ハドウシテモアソコニハ根ヲ下サヌ。  
 其點ハ日本デモ同ジダト思フ。一體人類ノ健全ナ  
 ルインステインクトハ全體主義的ナモノデナイカ  
 ト思フ。ソレガ歪メラレテ來テ今日ノヤウニナツ  
 タト思フ。ソレハ人間ガ自然ヲ征服シテ行クト云  
 フコトハ動物ト違フ點テ神ニ依ツテ與ハラレタハ  
 間ノ良イ性能トシテ動物ト區別サレルワケデア  
 ルガ、併シ自然ヲ征服スル爲メ色々ナ科學ノ勝利ガ  
 次カラ次ヘト實現サレルト、イツカソレニ誘惑サ  
 レテ、其ノ方面ガ非常ニ尊重サレ強調サレ過ギタ  
 ノガ西洋文明デア。今日テハソノ弊ガ積ツテ遂  
 ニ人類ノ集團生活ヲ破ツテシマフト云フ所迄來テ、  
 是デハナラヌト云ツテ人間本來ノコレクテイブ、  
 インステインクトガ高調サレ出シタモノガドイツ  
 ヤイタリノ新世界デアルト考ヘル。其ノ點日本

ナドハ個人主義的ノ傾向ガ入り込ンデカラ比較的  
 マダ日ガ淺イ。ダカラ本來ノ日本ノ國民性タル家  
 族制度的全體主義的ノ日本ノ國體ノマヽノ姿ニ歸  
 ルコトハ左程困難デハナイ。從ツテ今日ノ世界轉  
 換期ニ於ケル日本ノ覺醒ハ非常ニ早イト思フ。  
 野村 其ノ目醒メル迄ニ組織ガ出來ナケレバ――  
 小林 ソレガ一日モ早ク出來ナケレバナラヌ。ソ  
 レヲドウ云フ風ニ御考ヘテゴザイマスカ。  
 ソウ云フ問題ノヤリ方ニ就テハ。

## 九、國民組織ト近衛公

白鳥 今ノ國民再組織ノ問題デスネ。是ハ根本ニ  
 於テハドウシテモ日本ノ國體ノ本義ニ歸ルト云フ  
 思想運動デナケレバナラヌト思フ。政治ノ形態ノ  
 問題ニノミ没頭シタラ必ズ歪メラレテジマフ。從  
 來ハ神ガカリトカ何トカ言ツテインテリカラ輕蔑  
 サレタガ、インテリヲ納得サスニ足ル説明ノ方法  
 ヲ考ヘルコトハ必要ダガ、學問ノナイ人間ニハ說  
 明モ要ラナイ。天子様ニ御奉公スル爲ニ一生懸命  
 ニヤラウデヤナイカト言ヘバ直グ分ル。何モ彼モ  
 天皇様ノ預カリ物ダカラ七千萬國民ガ一切ヲオ上  
 ニ捧ゲテ打ツテ一丸トナツテ臣民道ノ實踐ヲヤラ  
 ウト云フコトデ出發スレバ、政治ハドウスル、經

濟ハドウスル、教育ハドウスル、青年ノ指導ハドウスルト云フヤウナコトハ自ラ軌道ニ乘ルベキモノデアアル。皆ガ其ノ氣持ニ歸ルトナレバ既成政黨人ガイカヌトカ、黨人ガイカヌトカ云フコトモソウ強調サルベキコトデハナイ。ミンナガ其ノ氣持ニナリ、其ノ氣持ニ基イテ政治ヲヤツテ行ク。日本ノ社會、經濟、教育、總テノ機構ヲソレニ則ツテ改メル。西洋流ノ個人主義的或ハ自由主義的、資本主義的ノ機構ハ此ノ際一切整理スルト云フコトニ自然ナルデアラウ。ソレガ宜イ。ソレデヤリマス。ト云フコトニナレバ皆同ジク天皇陛下ノ赤子デアルカラ、以前ニ何ヲ考ヘ、何ヲ言ヒ、何ヲヤツテ居ツタト言フコトハサウ深ク咎ムベキデナイ。一切過去ヲ水ニ流シテ一語ニ奉皇運動ヲヤツテ行カウ。ソレニ邁フヤウナ組織ヲ作ラウ。ソレニハ七千萬臣民ノ中デ第一ノ家柄タル近衛公ヲ先頭ニ立テ、公ニ音頭ヲ取ツテ貰フト云フコトカ極メテ自然デ、何人モ首肯出來ル。サウ云フ風ニ見テ行クト近衛公ハカケ替ノナイ人ニナツテ來ル。才幹トカ識見トカ人物トカヲ言ヘバ是ハ七千萬ノ中ニハ公ニ勝ル者ガ澤山アラウ。併シ日本歴史ニ於ケル近衛家ノ地位カラシテ、臣民ガ一丸トナツテ天皇陛下ニ歸屬シ奉ル其ノ新シイ運動、或ハ其ノ